

ウズベキスタン共和国  
青年海外協力隊員要請背景調査  
報告書

平成11年1月

JICA LIBRARY



J 1151450(2)

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局

JICA  
947  
36  
JVL  
BRARY

青派三

JR

99-004







# 報告書目次

1	調査団派遣の背景と目的	
1-1	調査団派遣の経緯と目的	1
1-2	調査内容	1
1-3	調査団の構成	1
1-4	調査日程	2
1-5	調査団面談者リスト	3
2	要請背景調査結果	
2-1	調査要約	6
2-2	公式要請合意案件等一覧	7
2-3	調査結果一覧表（露語）	8
2-4	受入希望調査表	11
3	協力隊員派遣計画	
3-1	協力隊活動のニーズ	21
3-2	重点分野	21
3-3	その他	22
3-4	事業展開	23
4	調査概要	
4-1	協議内容	24
4-2	他国援助機関の動向	32
4-3	事務所関連	33
4-4	生活環境	34



1151450(2)

# 1 調査団の背景と目的

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

ウズベキスタン共和国は、1924年から旧ソ連の一構成共和国とされてきたが、1991年に独立し、現国名に改称した。独立後CISに加盟する一方、NATOへの接近を図っている。政府は、政治・経済の改革に向け、さまざまな政策を実施し、民主化と自由化が進展しつつある。こうした状況にあつて、同政府は開発の推進に必要な人材の育成に資するべく青年海外協力隊員（以下「協力隊」）の受け入れに積極的な意向を表明した。これに応じて、我が国は97年12月に新規派遣国事前調査団を派遣した。同調査団は、先方政府に対し、協力隊事業の仕組みを説明し、交換公文の内容について説明を行なった。

その後、交換公文が98年12月14日にガニエフ対外経済関係大臣と在ウズベキスタン小畑大使との間で締結された。各要請内容の詳細を確認し、隊員派遣に係る情報を収集するために、本調査団が派遣された。

## 1-2 調査内容

- (1) 受入機関及び大使館と今後の業務計画につき協議する。
  - ・受入窓口である対外経済開発省と今後の派遣計画につき協議する。
  - ・各省庁と今後要請の可能性がある職種につき協議する。
- (2) 各要請につき、要請背景調査を行ない、募集に必要な情報収集を行なう。
  - ・配属先業務内容、活動内容、職場環境、先方負担事項につき調査する。
- (3) 協力隊活動開始に必要な情報収集を行なう。
  - ・他国援助機関から協力活動の現状、問題点を聴取する。
  - ・現地での語学訓練先、講師の確保、講師招へいの可能性を探る。

## 1-3 調査団の構成

団長／総括	青年海外協力隊事務局 次長	中島 行男
団員／派遣計画	青年海外協力隊事務局 派遣第三課 中央アジア諸国担当職員	小田中 恵
団員／通訳	(財)日本国際協力センター 研修管理部	堀内 敏夫

1-4 調査日程

	月 日 (曜)	日 程	宿 泊 地
1	1月10日 (日)	東京→フランクフルト (JL407) 14:00 18:10	フランクフルト
2	1月11日 (月)	フランクフルト→タシケント (LH3274) 13:20 23:30	タシケント
3	1月12日 (火)	10:00 日本大使館表敬・協議 14:30 対外経済関係省表敬・協議 16:45 中高等専門教育省表敬・協議 17:45 保健省表敬・協議 20:00 大使主催夕食会	タシケント
4	1月13日 (水)	10:00 世界経済外交大学/活動現場踏査 13:45 タシケント国立経済大学/活動現場踏査 16:00 世界言語大学/活動現場踏査	タシケント
5	1月14日 (木)	9:00 タシケント国立第二医科大学/活動現場踏査 13:45 タシケント無線技術専門学校/活動現場踏査 16:00 タシケント国立東洋学大学/活動現場踏査	タシケント
6	1月15日 (金)	9:00 タシケント国立経済大学/活動現場踏査 10:00 産科・婦人科科学調査研究所/活動現場踏査 14:00 国家体育スポーツ委員会/活動現場踏査	タシケント
7	1月16日 (土)	10:00 地方クリニック視察 14:00 国家体育スポーツ委員会/活動現場視察 (バレーボール、卓球、体操競技) 19:00 生活環境調査懇談会	タシケント
8	1月17日 (日)	10:00 国家体育スポーツ委員会/活動現場視察 (柔道) PM 生活環境調査	タシケント
9	1月18日 (月) (祝日)	AM 生活環境調査 PM 調査結果取りまとめ	タシケント
10	1月19日 (火)	10:00 KOICA 表敬 11:30 米国平和部隊 15:00 対外経済関係省への調査結果報告 16:15 大使館報告 17:00 大臣会議表敬・調査結果報告 19:00 団長主催夕食会	タシケント
11	1月20日 (水)	タシケント (TK1371) →イスタンブール (TK1587) → 4:50 6:50 フランクフルト (LH710) → 10:50 13:30	機 中
12	1月21日 (木)	東京着 8:30	



1-5 協議先及び面談者リスト

在ウズベキスタン日本大使館

小畑 紘一

中野 智

吉尾 一隆

特命全権大使

一等書記官

二等書記官

対外経済関係省

Ms. Shakhlo R. Abdullaeva

Mr. Hasan S. Islamkhodjaev

Mr. Khadjimetov Makhmud

次官

海外経済関係発展の分析・調査局 局長

アジア太平洋担当 専門家

中高等専門教育省

Mr. Saidahror S. Gulyamov

Mr. Kasim Rasulov

Dr. Abdujabar A. Abduvakhitov

大臣

国際関係総合局 次長

USTOV基金 総裁

保健省

Mr. Yarkulov A. B.

Mr. Sidikov Abdunamon

次官

対外経済局 局長

世界経済外交大学

Dr. Alimov Shavkat

Dr. Bahodir A. Khodjaev

Dr. Abdurafik A. Khashimov

Mr. Alihodjaev Askar Abdullaebich

副学長

副学長

学長補佐

外国語センター センター長

タシケント国立経済大学

Dr. Khikmatulla S. Lutfullaev

Dr. Durbek K. Akhmedov

Mr. Karieba Guliora Abdullaebha

学長代理

副学長

国際関係部 部長代理

世界言語大学

Dr. Balieva Gulandom Hisamovna

Mr. Muminov Omov Muminovech

石原氏

Mr. Sultanov Askar

副学長

通訳学部 学部長

日本語教師

日本語教師

タシケント国立第二医科大学

Dr. Hamid Yakubovich Karimov  
Dr. Sakiev Tohtasin  
Dr. Akramov Kamil  
Dr. Ickhom Kazimjauov  
Dr. Sherzod Zakizhodjaen  
Dr. A. Nigora Abdugaparovna

学 長  
副 学 長  
病 院 部 部長  
小児科学部 学部長  
内科栄養学（食事療法）センター センター長  
准医師（新生児）

タシケント無線通信専門学校

Mr. Tojiev Iskandar  
Mr. Toshpulatov Bakhodir  
Mr. Akhunov Rustam  
Mr. Abdulhaeva Nasuda

校 長  
副 校 長  
副 校 長  
治 金 部

タシケント東洋学大学

Dr. Nasarov Bakhodir Nuridonovich  
Mr. Yakubov Saipojan Bakiebich  
Dr. Pak Nelli  
平 畑 奈 美  
福 島 青 史  
小 松 敬 明  
菅 野 れいこ  
宮 本 ゆりこ

副学長（国際関係部担当）  
国際関係部 次長  
言語学部 日本文学 学科長  
日本語教師  
日本語教師  
日本語教師  
日本語教師  
日本語教師

産科・婦人科科学調査研究所

Dr. Podoporenko Alisa Dmitrievna

所 長

国家体育スポーツ委員会

Mr. Tulyaganov Shavkat Turaebich  
Mr. Radjapov Garat Sadikobich  
Ms. Yeremchuk Hatalya Vasilyebha  
Ms. Minakov Alla Borisovha  
Ms. Kuznetsuova Sbetlaha Mikhailovha  
Mr. Panasuk Raisa  
Mr. Jalnovakova Cudmila  
Mr. Ametov Rustem  
Mr. Yusupov Erkih  
Mr. Hafasov Nurkhoh  
Mr. Abbasov Khislyat Salikhobich

議長第一代理  
スポーツ局 局長  
国際部 部長  
体操競技主任トレーナー  
体操競技主任トレーナー  
スポーツ学校（体操） 校長  
スポーツ学校（体操） 副校長  
柔道主任トレーナー  
チルチック市スポーツ学院 学院長  
空手協会 総裁  
ゲームスポーツ高等スポーツ共和国学校 校長

ヤンギール地区中央病院TMO  
Dr. Beshеров B. A.

副主任医師

JICA 専門家  
田宮 友恵  
渡邊 穎一

重要政策中枢支援協力  
重要政策中枢支援協力

KOICA  
Mr. Han Young-Tae

代 表

米国ピースコー  
Mr. Ann Hartman

所員（計画・訓練担当）

大臣会議  
Mr. Mukhaidov Akrai Akbarovich  
Mr. Dijuraev Ravshahbek Obisjanovich

対外経済事業調整局 局長  
対外経済事業調整局 主任専門官

## 2 要請背景調査結果

### 2-1 調査要約

1. 調査団は、平成 11 年 1 月 11 日から 19 日まで 9 日間に亘りウズベキスタン共和国に滞在し、対外経済関係省作成の協議日程に基づいて 4 省庁、11 関係機関を訪問した。数多くの関係者と協議を通じて、先方側の協力隊に対する関心の高さ、隊員派遣の早期実現への期待が強く感じられた。
2. 協議した各省庁及び関係機関において、調査団から協力隊活動の概要、要請手続、隊員派遣までのプロセス、日本側の負担すべきこと及び先方政府の負担すべきこと等について説明を行なった。既に要請書を提出している機関については、その背景、妥当性についてヒアリングしつつ要請内容を確認した。また、隊員要請を検討中の機関に対しては、具体的要請職種や配属先の現状等を確認し、必要な手続きの説明を行なった。
3. 今回の調査結果は別添一覧表のとおり、20 件の要請があり、その内首都タシケントでの活動現場 12 件の調査を実施し、8 件は今後の検討要請とし調査は実施しなかった。調査を実施した 10 件を平成 11 年度春募集の対象とすることが妥当であると判断した。2 件は、継続協議案件とし対象とはしていない。  
また、公式化した 10 件のうち、日本語教師の 3 件は学期開始時期を考慮して平成 11 年度 2 次隊（99 年 12 月）での確保を目指す。
4. 調査団滞在中には地方調査は行なわなかったが、関係機関との協議を通じて隊員活動は地方展開が求められていることを確認した。地方展開については、「協力隊調整員」派遣後に現地での詳細な調査を行なった上で隊員派遣を進めることが妥当である。従って、本調査結果は、初代隊員として先ず首都タシケント近郊に配属することを主眼に要請を絞り込んだものである。
5. 調査団は、関係省庁のみならず、在ウ他国ボランティア機関（ピースコー、KOICA）も訪問し、活動状況及び実施体制、ボランティアの処遇等について意見交換を行なった。また、隊員の海外手当設定に資するため、市内における各種の物価調査を実施するとともに、治安対策等の情報収集を行った。
6. 最後に、訪問先関係省庁の行き届いた対応は勿論のこと、特に対外経済関係省は調査団のほぼ全日程に日本担当 Khadjimetov 専門家をアテンド役として配置し、極めてタイトな日程にも関わらず、予定どおり調査団所期の目的が達成できるよう多大な配慮をいただいた。対外経済関係省の親身な対応ぶりを特筆し、深く感謝申し上げたい。

2-2 公式要請合意案件等一覧

	要 請 機 関	職 種	調 査 結 果 内 訳		備 考
1	世界経済外交大学	日本語教師	○	公式化	
2	タシケント国立経済大学	日本語教師	○	公式化	
3	世界言語大学	日本語教師	○	公式化	
4	タシケント国立第二医科大学	看護婦	○	公式化	
5	産科・婦人科科学調査研究所	助産婦	○	公式化	
6	国家体育スポーツ委員会	バレーボール	○	公式化	
7	国家体育スポーツ委員会	空手	○	公式化	
8	国家体育スポーツ委員会	柔道	○	公式化	
9	国家体育スポーツ委員会	卓球	○	公式化	
10	国家体育スポーツ委員会	体操競技	○	公式化	
11	タシケント無線技術専門学校	電子機器	△	継続協議	機材未整備
12	タシケント国立東洋学大学	日本語教師	△	派遣時期 要検討	交流基金専門家 活動中
13	講道館スポーツクラブ	剣道	※		今後検討される要請
14	アンディジャン国立外語大学	日本語教師	※		今後検討される要請
15	サマルカンド国立外国語大学	日本語教師	※		今後検討される要請
16	ヤンギアバード無線技術専門学校	無線技術	※		今後検討される要請
17	タシケント航空専門学校	飛行技術	※		今後検討される要請
18	サマルカンド機械工業専門学校	機械組立技術	※		今後検討される要請
19	クルガンテバ織物・軽工業専門学校	織物加工技術	※		今後検討される要請
20	ブハラ織物・軽工業専門学校	織物加工技術	※		今後検討される要請

2-3 調査結果一覧表（露語）

98年1月19日

対外経済関係省  
次官 アブドゥラーエヴァ殿  
Ministry of Economic Relations  
The Republic of Uzbekistan  
Deputy Minister  
Ms. Shakhlo R. Abdullaeva

ウズベキスタン共和国協力隊員要請背景調査結果報告書

今般、貴国政府対外経済関係省から要請越しました案件につき、別紙のとおり調査の結果をご報告申し上げます。

国際協力事業団  
青年海外協力隊事務局  
ウズベキスタン共和国  
青年海外協力隊員要請背景調査団  
団長 中島 行男

“19” января 1999 г.

Министерство внешне-экономической связи Республики Узбекистан

Зам. министр

Мисс. Шахлу Р. Абдуллаеву

Отчет по результату исследования об обстановке заявления

по направлению волонтеров

Японского Корпуса Добровольческого сотрудничества(ЮСВ)

Имею честь сообщить Вам свой отчет, приложенным к этому листу о результате исследования о заявлений от Вашего правительства через министерство внешней экономической связи.

Японское Агентство по Международному сотрудничеству(ЈІСА),

Секретариат ЮСВ,

Глава группы исследования об обстановке заявления по направлению волонтеров ЮСВ  
Юкио Накадзима

1. Из нижеуказанной реконструированной таблицы(2) по результатам исследования, на 10 предметов, отмеченных знаком ○ в подкомонке результата исследования будет исполнен открытый набор волонтеров в весне (с апреля по май) '99 г.

2. Таблица по результату исследования

	Запрашиваемые аппараты	Виды работ	результаты исследования	Примечания
1	Университет мировой экономики и дипломатии	Преподаватель япон. языка	○ Оформляется	
2	Ташкент. государст. экономический университет	Преподаватель япон. языка	○ Оформляется	
3	Университет мировых языков	Преподаватель япон. языка	○ Оформляется	
4	Ташкент. государст. второй мединский университет	Медсестра	○ Оформляется	
5	НИИ акушерства и гинекологии	Акушерка	○ Оформляется	
6	Госкомитет по физкультуре и спорте	Балейбол	○ Оформляется	
7	Госкомитет по физкультуре и спорте	Каратэ	○ Оформляется	
8	Госкомитет по физкультуре и спорте	Дзюдо	○ Оформляется	
9	Госкомитет по физкультуре и спорте	Настольный теннис	○ Оформляется	
10	Госкомитет по физкультуре и спорте	Гимнастика	○ Оформляется	
11	Ташкент. профес. коллеж радио-техники	Электронная техника	△ Рассматривается	Не определены учебные аппаратуры
12	Ташкент. государст. институт востоковедения	Преподаватель япон. языка	△ Рассматривается по моменту направления	Преподают специалисты по линии фонда международного обмена
13	"Кодокав" спортивный клуб	Кендо	※	Рассматривается в будущем
14	Андижан. государст. институт иностранных языков	Преподаватель япон. языка	※	Рассматривается в будущем
15	Самарканд. государст. институт иностранных языков	Преподаватель япон. языка	※	Рассматривается в будущем
16	Янги-Абад. спец. коллеж по радио-технике	Радио-техника	※	Рассматривается в будущем
17	Ташкент. авиа-спец. коллеж	Авиа-техника	※	Рассматривается в будущем
18	Самарканд. машино-строительный спец. коллеж	Машино-сборочная техника	※	Рассматривается в будущем
19	Кулгантена. спец. коллеж ткацко-легкой промышленности	Ткацко-перерабатывающая тех.	※	Рассматривается в будущем
20	Бухара. спец. коллеж ткацко-легкой промышленности	Ткацко-перерабатывающая тех.	※	Рассматривается в будущем



青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (783-99001)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ウズベキスタン	(日本語) : 日本語教師 (職種コード) : 691	○新規 交代	男 人	○11年2次 絶対の場合○印
	(現地用語) : Japanese Teacher		女 人	
			不問 1人	
配属先概要	1) 配属先省庁名 : 外務省 (現地用語) : Ministry of Foreign Affairs			
	2) 勤務先名 : 世界経済外交大学 (現地用語) : University of World Economy & Diplomacy			
	2) 住所 : 700137, Buyuk Ipak Yoly 54, Tashkent Tel: 688377		主要都市 (タシュケント) から km 交通手段 ( ) で 時間	
	4) 事業内容及び予算 : 国際関係学部、国際経済関係学部、国際法学部の3学部がある。 学生数は1,040名 (うち大学院生80名)。			
要請概要	1) 要請理由 (目的) : 年々、日本語受講者は増えているが、教師数が不足している。99年夏には、日本の文化無償で日本語学習教材 (約4,500万円) される予定であり、日本語学習センターが設置される。日本語教育拡大に伴い、日本語教授法を習得した人材が必要とされている。			
	2) 隊員の地位 (日本語) : 教師		(現地用語) : Teacher	
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 第1外国語として20名(3グループ)、第2外国語として50名(5グループ)が学習している。授業数は第1外国語グループは週12時限(1時限/80分)、第2外国語グループは週6時限(1時限/80分)である。隊員は、他の日本語教師と授業数を分担して、週12時限(18時間)を担当することになる。授業内容、指導項目などは、隊員が主体となり決定する。2学期制で、前期は9月1日から2月1日、後期は2月1日から5月末。各学期終了時に成績を付け、単位となる。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等 (写真添付のこと) : 文化無償にて日本語教材が供与される。教材については、入札前につき、現段階では非公示。			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年数) Mr. Shamsieva B. A 世界言語学部主任・助教授 50才 Ms. Gafurova Hakima 日本語教師 25才 東洋学大学卒 中野氏 日本語教師 (ボランティア) 67才		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 大学1年生から5年生 初級・中級 30名 上級20名	
7) 訓練すべき言語 (ウズベク語)				
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) : KOICA (韓国語教師)、米国ピースコー (英語教師)、スペイン、ドイツ等、外国人ボランティア教師12名 (うち、1名が契約)				
条件	学歴、経験、資格 : 大卒、指導経験2年 (受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境 : 気候 大陸性気候 (夏は非常に暑く、冬は寒い)		気温 40~-20°	
活	任地の人口 (約220万人) ・日用品 : 価格 (高い・安い・普通)、品質 (良い・普通・悪い)		物質 (豊富・普通・欠乏)	

① 募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (763-99002)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ウズベキスタン	(日本語) : 日本語教師 (職種コード) : 691	○新規 交代	男 人	○11年2次 絶対の場合○印
	(現地用語) : Japanese Teacher		女 人	
			不問 1人	
配 属 先 概 要	1) 配属先省庁名 : 中高等専門教育省 (現地用語) : Ministry of Higher Secondary Specialized Education			
	2) 配属先名 : タシケント国立経済大学 (現地用語) : Tashkent State Economic University			
	2) 住所 : 49, Uzbekistanskaya Str. 700063		主要都市 (タシュケント) から km	
			交通手段 ( ) で 時間	
請 概 要	4) 事業内容及び予算 : 中央アジアで、2を誇る経済分野の専門家養成大学。6学部、夜間3学部、国際経済学部、国際ビジネス学部 一般経済学部など。学生数は8,000名 地方にも支部校があり、経済分野の教員に対する再教育コースも行なっても 海外の大学とも交流があり、協定を結んで、学士の資格を共用している。 全体年間予算 : 1億4,600万ソム (約120万ドル)			
	1) 要請理由 (目的) : 当大学は、第1外国語が英語、第2外国語がスペイン語、ドイツ語、仏語があり、外国語講座として日本語コースがある。日本語コースは98年9月に開設されたばかりである。日本語教育の主な目的は、当大学で経済学を学んだ後、 日本へ留学するためである。			
	2) 隊員の地位 (日本語) : 教師 (現地用語) : Teacher			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 日本語学習者は25名、2グループからなる。1グループの授業数は、週8~10時間。隊員は、週8時間の授業を担当する。担当する授業の指導内容、教授方針などは隊員が主体となって決定していく。2学期制で、前期は9月1日から2月1日、後期は2月1日から5月末。各学期終了時に成績をつけ、単位となる。			
要 概 要	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等 (写真添付のこと) : TV DAEWO、ビデオ DAEWO VHS PAL方式、LL教室はあるが、古く使用は困難と思われる。 教科書、辞書等はほとんどない。			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年数) Ms. Talat Hamdamov (外国語講座 講座長) 鈴木氏 (東北大学から派遣) 日本語教師 言語学者 教授 浅村氏 (東北大学から派遣) 日本語教師		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 大学1年生から5年生 初級レベル	
	7) 訓練すべき言語 (ウズベク語)			
条 件	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) : 言語ではKOICA、米国ピースコー。他は経済分野の外国人教師がいる。			
	学歴、経験、資格 : 大卒、日本語教授法 (受入れに不可欠のみ記入)			
生 活	生活環境 : 気候 大陸性気候 (夏は非常に暑く、冬は寒い) 任地の人口 (約220万人) ・日用品 : 価格 (高い・安い・普通)、品質 (良い・普通・悪い) 物質 (豊富・普通・欠乏)			気温 40~-20°

① 集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (763-99003)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ウズベキスタン	(日本語) : 日本語教師 (職種コード) : 691 (現地用語) : Japanese Teacher	○新規 交代	男 人 女 人 不問 1人	○11年2次 絶対の場合○印
配属先概要	1) 配属先省庁名 : 中高等専門教育省 (現地用語) : Ministry of Higher Secondary Specialized Education			
	2) 配属先名 : ウズベキスタン国立世界言語大学 (現地用語) : The Uzbek State World Languages University			
	2) 住所 : str. S. Usupova G 9 <sup>a</sup> 21 a Tashkent 主要都市 (タシュケント) から km Tel: (7-371)-757-795 交通手段 ( ) で 時間			
	4) 事業内容及び予算 : 言語学の専門家を養成している。学部は、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、通訳部がある。 学生数は5,000名 教師数525名 全体年間予算 : 2億ソム (約180万ドル)			
要請概要	1) 要請理由 (目的) : 日本語教育は96年から開始された。 年々、日本語受講者は増えているが、教師数が不足している。また、在籍している日本人教師はボランティアで活動しているが、日本語教育が専門ではない。そのため、日本語教授法を習得した人材が必要とされている。			
	2) 隊員の地位 (日本語) : 教師 (現地用語) :			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 日本語学習者は、第2外国語として、57名が在籍している。2年生1グループ、3年生2グループ、5年生1グループあり、1グループの人数は13、4名、授業数は、週4日、8時限、1時限/90分である。副学長 (Dr. Balieva) の主導によって、教授内容、指導項目が決定されている。2学期制で、前期は9月1日から2月1日、後期は2月1日から5月末。各学期終了時に成績をつけ、単位となる。5年生は、終了時に国家共通試験 (日本語) を受けている。教授経験があることが望ましく、大学内の会議等は英語を使用しているため、英語の知識が高いことが望まれる。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等 (写真添付のこと) : コピー機 Canon PC100 (交流基金から寄贈)、テープレコーダー ソニー 100 Digital、TV ソニー、ビデオ シャープ Mesecam VHS PAL対応 使用している教科書 : 総合日本語初級から中級、日本語中級 辞書等はほとんどない。			
要件	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年数) Mr. Muminov Omov Muminovech (通訳学部 学部長) 石原氏 日本語教師 Mr. Sultanov Askar 日本語教師		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 大学1年生から5年生 初級レベル	
	7) 訓練すべき言語 (ウズベク語)			
条件	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) : KOIGA (韓国語教師)、British Council、米ホーラス基金、米アジア無償援助など			
	学歴、経験、資格 : 大卒、日本語教授法 (受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境 : 気候 大陸性気候 気温 40~-20° 任地の人口 (約220万人) ・日用品 : 価格 (高い・安い・普通)、品質 (良い・普通・悪い)			
	物質 (豊富・普通・欠乏)			

① 募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (763-99004)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ウズベキスタン	(日本語) : 看護婦 (職種コード) : 511	○新規 交代	男 人 女 1人 不問 人	○11年3次 絶対の場合○印
	(現地用語) : Nurse			
配 属 先 概 要	1) 配属先省庁名 : 保健省 (現地用語) : Ministry of Health			
	2) 配属先名 : タシケント国立第2医科大学付属病院部小児科病棟 (現地用語) : Second Tashkent State Medical Institute			
	2) 住所 : 700109 Farobi str.2 Tashkent Tel:3712-464637		主要都市(タシケント)から km 交通手段( )で 時間	
	4) 事業内容及び予算 : 大学は3学部(治療学部、予防医療学部、小児病学部)あり、医師及び看護婦の養成を行なっている。生徒数は2,100名、教師数は326名(内医学博士104名、医学博士候補222名)である。大学敷地内に病院部(内科、外科、小児科産婦人科)があり、治療と教育の2つの目的を果たしている。また、「ウ」国では、医療費は無料である。 大学年間予算 : 1億2千万ソム(約94万ドル)			
請 概 要	1) 要請理由(目的) : 91年の独立以降、新規開発計画として保健医療行政においては、看護婦の教育・訓練、近代医療環境へ適合するための医師・看護婦等の再教育などが推進されている。今般、日本の知識・技術を取り入れたいと隊員養成がなされた。			
	2) 隊員の地位(日本語) : 看護婦		(現地用語) : Nurse	
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 小児科病棟にて、他看護婦及び看護学生と共に日常の看護業務を行なうことによって、日本の経験・情報を共有し、患者を主体とした看護の在り方を実務によって普及する。小児科病棟には、小児神経科、アレルギー科、呼吸器科、泌尿器科、新生児科(1才未満)がある。ベット数130床、小児科医師教官15名、小児科医師30名、婦長12名、看護婦115名、他医療従事者60名が所属している。2勤体制で、日勤8:00から16:00、夜勤16:00から8:00となっている。隊員は日勤で週6日間の活動が期待されている。担当するベット数は、業務内容によって異なり、1)投薬、医師の指示により処置をする看護婦は15床/1名、2)点滴等を担当する看護婦は30床/1名となっている。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) :			
要	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) Dr. A. Nigora Abdugaparovna 新生児科(准医師) Dr. Ickhom Kazimjauov 大学小児科学部 学部長 43才		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 看護婦 平均23才から24才 看護学校3年制 小児科学科卒(専門化されている) 看護学生(17才から20才)	
	7) 訓練すべき言語(ウズベク語)			
	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) : シカゴ・イリノイ医科大学とは、現在まで6年間、人材育成、機材供与、情報交換等で協力関係にある。また、米国保健健康連合、スペイン、英国の王立大学、北海道大学や京都大学とも交流がある。			
条 件	学歴、経験、資格 : 女性、看護婦、小児科経験3年 (受入れに不可欠のみ記入)			
生 活	生活環境 : 気候 大陸性気候		気温 40~-20°	
	任地の人口(約220万人)・日用品 : 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (763-99005)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ウズベキスタン	(日本語) : 助産婦 (職種コード) : 512	○新規 交代	男 人 女 1人 不問 人	○11年3次 絶対の場合○印
	(現地用語) : Midwife			
配 属 先 概 要	1) 配属先省庁名 : 保健省 (現地用語) : Ministry of Health			
	2) 配属先名 : 産科・婦人科科学調査研究所 (現地用語) : Science Reseach Institute of Obstetrics and Ginecology			
	2) 住所 : 132 A H. Abdullaev Ave. Tashkent Tel: (7312) 637830 Fax: (7312) 638483		主要都市 (タシュケント) から km 交通手段 ( ) で 時間	
	4) 事業内容及び予算 : 研究所は、人口統計や保健調査を実施すると共に、医療行為 (産科、婦人科) も行なっている。 ベット数は、産科110床、婦人科90床。医師数160名 (うち研究分野40名、外来20名 (1日外来患者数平均240名) 産婦人科医師90名)、婦長10名、看護婦133名、助産婦70名、理学療法士10名、保健婦2名が所属している。 年間予算 : 1億ソム (約78万ドル)			
請 概 要	1) 要請理由 (目的) : 医療改革計画では、母子保健分野に高い優先順位を置き、保健省は「母子保健向上計画」を策定するとともに、女性とりわけ出産年齢期にある女性や妊産婦など、母親の健康回復及び新生児の罹患防止のための予防接種、家族計画及び母子関連の医療施設の改善を推進してきた。今般、日本の知識・技術を取り入れたいと隊員要請がなされた。			
	2) 隊員の地位 (日本語) : 助産婦		(現地用語) : Midwife	
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 他助産婦、看護婦と共に業務を行ないながら、日本の経験・情報を共有し、知識、技術を普及する。出産時には産科医と小児科医が立ち合うことになっており、当研究所では、1日に5から7人の出産がある。規程で、1患者に12mを割り当てることになっているので、部屋は全て個室になっている。また、将来的には、日本の作業手順について、看護婦、助産婦に対し講義を行なうことも期待されている。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等 (写真添付のこと) : 80年初めのハンガリー、スウェーデン、ドイツ製のものを使用している。別添写真参照。			
要	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年数) Dr. Podoporenko Alisa Dmitrievna 研究所 所長		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 助産婦 義務教育後医学校 (4年制) 卒 看護婦 義務教育後看護学校 (3年制) 卒	
	7) 訓練すべき言語 (ウズベク語)			
条 件	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) : イスラエルと共同研究している。			
	学歴、経験、資格 : 助産婦 (受入れに不可欠のみ記入)			
生 活	生活環境 : 気候 大陸性気候 任地の人口 (約220万人) ・日用品 : 価格 (高い・安い・普通)、品質 (良い・普通・悪い) 物質 (豊富・普通・欠乏)		気温 40~-20°	

① 募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (763-99006)

調査者名・小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ウズベキスタン	(日本語) : バレーボール (職種コード) : 743	○新規 交代	男 人	○11年3次 絶対の場合○印
	(現地用語) : Volleyball		女 人 不問 1人	
配 属 先 概 要	1) 配属先省庁名 : 大臣会議 (現地用語) : Cabinet Ministry			
	2) 配属先名 : 国家体育スポーツ委員会 (現地用語) : State Committee of The Republic Uzbekistan for Physical Culture and Sport			
	2) 住所 : 70027 Fourkat Str.1 Tashkent Tel: (3712) 451618 Fax: (3712) 450852		主要都市 (タシュケント) から km 交通手段 ( ) で 時間	
	4) 事業内容及び予算 : 委員会には、各種競技の40協会が登録されている。委員会の目的は、国民の健康強化、スポーツ選手の養成である。「ウ」国には、体育学院5校、14行政区、12州の行政部にスポーツ部があり、国全体で体育・スポーツの発展を目指している。			
請 概 要	1) 要請理由 (目的) : バレーボールは国際経験が少なく、競技力は低い。日本のトレーニング手法等を取り入れ幅広いレベルアップを図る。バレーボール人口は6万人、トレーナー及びコーチは1,200名いる。			
	2) 隊員の地位 (日本語) : コーチ		(現地用語) : Coach	
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : バレーボール協会付属スポーツ学校 (全校生徒300名、コーチ20名) のバレーボール部、または、普通学校の授業及び課外授業において生徒達に対し、同僚コーチと共に指導する。1グループは12から15名で構成されている。隊員は週18時間を担当することになる。さらに高いレベルでの指導も期待されている。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等 (写真添付のこと) : 別添写真参照。			
要	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年数) Mr. Abbasov Khislyat Salikhovich ゲームスポーツ高等スポーツ共和国学校 校長		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 生徒 (9才から18才)	
			7) 訓練すべき言語 (ウズベク語)	
	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) :			
条 件	学歴、経験、資格 : 競技経験5年 (受入れに不可欠のみ記入)			
生 活	生活環境 : 気候 大陸性気候		気温 40~-20°	
	任地の人口 (約220万人) ・日用品 : 価格 (高い・安い・普通)、品質 (良い・普通・悪い) 物質 (豊富・普通・欠乏)			

① 募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (763-99007)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ウズベキスタン	(日本語) : 空手 (職種コード) : 762	○新規 交代	男 1人 女 人 不問 人	○11年3次 絶対の場合○印
	(現地用語) : Karate			
配属先概要	1) 配属先省庁名 : 大臣会議 (現地用語) : Cabinet Ministry			
	2) 配属先名 : ウズベキスタン国家体育スポーツ委員会 (現地用語) : State Committee of The Republic Uzbekistan for Physical Culture and Sport			
	2) 住所 : 70027 Fourkat Str.1 Tashkent		主要都市 (タシュケント) から km	
	Tel : (3712) 451618 Fax : (3712) 450852		交通手段 ( ) で 時間	
概要	4) 事業内容及び予算 : 委員会には、各種競技の40協会が登録されている。委員会の目的は、国民の健康強化、スポーツ選手の養成である。「ウ」国には、体育学院5校、14行政区、12州の行政部にスポーツ部があり、国全体で体育・スポーツの発展を目指している。			
	1) 要請理由 (目的) : 空手人口は4万人以上。道場によっては、200名以上集める道場もある。空手協会には、100名のトレーナー資格を所持しているコーチが在籍している。6段が1名、5段が3名、4段が4~6名、3段が6~7名、2段が15~16名、初段が80名である。			
	2) 隊員の地位 (日本語) : コーチ (現地用語) : Coach			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 義務教育普通学校 (7才から18才) の授業及び課外授業において生徒達に、同僚コーチと共に指導を行なう。隊員は1校あたり、体育の授業として週2時間、課外授業として週時間、合計週6時間を担当する。1校のみならず数校兼務し、週18時間程度の活動する。また、さらに高いレベルでの指導も期待されている。			
概要	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等 (写真添付のこと) :			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年数) Mr. Hafasov Nurkhoh 空手協会総裁		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 生徒 (7才から18才) 全員白帯	
	7) 訓練すべき言語 (ウズベク語)			
概要	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) :			
	条件 学歴、経験、資格 : 男性、松栲館3段 (受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境 : 気候 大陸性気候		気温 40~-20°	
	任地の人口 (約220万人) ・日用品 : 価格 (高い・安い・普通)、品質 (良い・普通・悪い) 物質 (豊富・普通・欠乏)			

① 募集資料用

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (763-99008)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ウズベキスタン	(日本語) : 柔道 (職種コード) : 761  (現地用語) : Judo	○新規 交代	男 1人 女 人 不問 人	○11年3次 絶対の場合○印
配属先概要	1) 配属先省庁名 : 大臣会議 (現地用語) : Cabinet Ministry			
	2) 配属先名 : ウズベキスタン国家体育スポーツ委員会 (現地用語) : State Committee of The Republic Uzbekistan for Physical Culture and Sport			
配属先概要	2) 住所 : 70027 Fourkat Str. I Tashkent 現場はChirchiq市 主要都市(タシュケント)から 30km Tel : (3712) 451618 Fax : (3712) 450852 交通手段(バス)で 40分			
	4) 事業内容及び予算 : 委員会には、各種競技の40協会が登録されている。委員会の目的は、国民の健康強化、スポーツ選手の養成である。「ウ」国には、体育学院5校、14行政区、12州の行政部にスポーツ部があり、国全体で体育・スポーツの発展を目指している。			
要請概要	1) 要請理由(目的) : 柔道人口は年々増えてきている。柔道が盛んな街(チュルチック)にスポーツ学院があり、そのレベルアップのために今回隊員が要請された。1年半前から混成チームができ、オリンピック、アジア大会に出場している選手も在籍している。なお、段制度はないが、柔道コーチは、10年から15年の経験を持っている。			
	2) 隊員の地位(日本語) : コーチ (現地用語) : Coach			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : スポーツ学院では、6種目のスポーツが教えられており、全校生徒数は150名。柔道生徒(13才から18才)は40名~50名、コーチは6名、朝2時間、午後2時間、週6日、24時間の授業を他コーチと共に指導する。また、さらに高いレベルでの指導も期待されている。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等(写真添付のこと) : 写真参照。			
要請概要	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年数) Mr. Ametov Rustem 柔道トレーナー Mr. Yusupov Nurkhoh スポーツ学院 学院長		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 生徒(13才から18才)	
	7) 訓練すべき言語(ウズベク語)			
要請概要	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) :			
	条件 学歴、経験、資格 : 男性、3段相当の実力 (受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境 : 気候 大陸性気候		気温 40~-20°	
	任地の人口(約220万人)・日用品 : 価格(高い・安い・普通)、品質(良い・普通・悪い) 物質(豊富・普通・欠乏)			

① 募集資料用



青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (763-99009)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ウズベキスタン	(日本語) : 卓球 (職種コード) : 741	○新規 交代	男 人 女 人 不問 1人	○11年3次 絶対の場合○印
	(現地用語) : Table Tennis			
配 属 先 概 要	1) 配属先省庁名 : 大臣会議 (現地用語) : Cabinet Ministry			
	2) 配属先名 : ウズベキスタン国家体育スポーツ委員会 (現地用語) : State Committee of The Republic Uzbekistan for Physical Culture and Sport			
	2) 住所 : 70027 Fourkat Str. 1 Tashkent Tel: (3712) 451618 Fax: (3712) 450952		主要都市 (タシュケント) から km 交通手段 ( ) で 分	
	4) 事業内容及び予算 : 委員会には、各種競技の40協会が登録されている。委員会の目的は、国民の健康強化、スポーツ選手の養成である。「ウ」国には、体育学院5校、14行政区、12州の行政部にスポーツ部があり、国全体で体育・スポーツの発展を目指している。			
要 請 概 要	1) 要請理由 (目的) : 卓球人口は5万人、非常に人気があるスポーツである。国際大会経験は少なく、レベルは低い。日本のトレーニング手法を取り入れたいと、今回隊員が要請された。			
	2) 隊員の地位 (日本語) : コーチ		(現地用語) : Coach	
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 義務教育普通学校 (7才から18才) の授業及び課外授業において、生徒達 (1グループ6から10名) に、同僚コーチと共に指導を行なう。1校のみならず、数校兼務し、週18時間程度活動する。また、さらに高いレベルでの指導も期待されている。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等 (写真添付のこと) : 写真参照。			
要	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年数) Mr. Abbasov Khislyat Salikhovich ゲームスポーツ高等スポーツ共和国学校 校長		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 生徒 (7才から18才)	
	7) 訓練すべき言語 (ウズベク語)			
条 件	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) :			
	学歴、経験、資格 : 競技経験5年 (受入れに不可欠のみ記入)			
生 活	生活環境 : 気候 大陸性気候 任地の人口 (約220万人) ・日用品 : 価格 (高い・安い・普通)、品質 (良い・普通・悪い) 物質 (豊富・普通・欠乏)		気温 40~-20°	

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日 平成11年 2月 1日

要請番号 (763-99010)

調査者名 小田中

国名	職種名	区分	性別・人数	派遣希望時期
ウズベキスタン	(日本語) : 体操競技 (職種コード) : 720	○新規 交代	男 1人 女 人 不問 人	○11年3次 絶対の場合○印
	(現地用語) : Gymnastic			
配属先概要	1) 配属先省庁名 : 大臣会議 (現地用語) : Cabinet Ministry			
	2) 配属先名 : ウズベキスタン国家体育スポーツ委員会 (現地用語) : State Committee of The Republic Uzbekistan for Physical Culture and Sport			
	2) 住所 : 70027 Fourkat Str. 1 Tashkent Tel: (3712) 451618 Fax: (3712) 450852		主要都市 (タシュケント) から km 交通手段 ( ) で 分	
	4) 事業内容及び予算 : 委員会には、各種競技の40協会が登録されている。委員会の目的は、国民の健康強化、スポーツ選手の養成である。「ウ」国には、体育学院5校、14行政区、12州の行政区にスポーツ部があり、国全体で体育・スポーツの発展を目指している。			
要請概要	1) 要請理由 (目的) : 体操競技人口は、2,000名。体操連盟にはコーチは200名所属している。旧ソ連時代から、古い歴史があり盛んなスポーツである。日本のトレーニング手法等を取り入れたいと、今回隊員が要請された。			
	2) 隊員の地位 (日本語) : コーチ (現地用語) : Coach			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 : 鉄道職員の子弟が主に通う義務教育普通学校に付属するスポーツ学校 (生徒数200名) で、他同僚 (10名) と共に生徒に指導を行なう。普通学校で午前中授業を受けた生徒が、午後から体操の練習を行なう。生徒のうち6割が男性であり、隊員は主に男子競技の指導を行なう。同校のレベルは全学校大会で、1か2位である。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式・設備等 (写真添付のこと) : 設備は旧ソ連製10年から12年前の物であるが、ほぼ整っている。写真参照			
要	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年数) Ms. Minakov A. Borisovha 体操主任トレーナー Ms. Kuznetsuova S. Mikhailovha 体操トレーナー Ms. Panasuk Raisas スポーツ学校 校長 Ms. Jalnovakova Gudmila スポーツ学校 副校長		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 生徒 (5才から18才)	
	7) 訓練すべき言語 (ウズベク語)			
条件	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) :			
	学歴、経験、資格 : 男性、大卒 (体育)、競技経験5年 (受入れに不可欠のみ記入)			
生活	生活環境 : 気候 大陸性気候		気温 40~-20°	
	任地の人口 (約220万人) ・日用品 : 価格 (高い・安い・普通)、品質 (良い・普通・悪い) 物質 (豊富・普通・欠乏)			

① 募集資料用

### 3 協力隊員派遣計画

#### 3-1 協力隊活動のニーズ

協力隊のニーズは以下の理由から非常に高いといえる。

- (1) GNP : 1,010US\$/96年(世銀)
- (2) 経済 : 綿花生産を中心のモノカルチャー経済を特色としている。天然ガスが豊富であり、天然資源に恵まれている。もともとは農業国であり、エネルギー資源も豊富なことから、CIS 諸国の中ではソ連崩壊の影響による生産性低下が最も少ない。しかし、一方で企業の民営化、金融市場、農業近代化等は大幅に立ち後れている。また、複数為替制度や外貨交換制限等の為替政策のため、IMF との融資交渉が頓挫したまま、新規の円借款供与もストップしており、再開の目処は立っていない。
- (3) 国民性 : 民族的に日本人に近く、日本に親近感を持ち、日本の技術、経済、文化に興味を持っている人が多い。

#### 3-2 重点分野

あらゆる分野でニーズは高く、派遣される隊員は多職種に及ぶ見込みであるが、要請優先度が高く中心職種となると思われる分野は以下のとおりである。また、新規派遣国で安定した人数の派遣が望まれるため、充足率の高い職種を優先する必要がある。

##### (1) 教育分野

日本語教師 :

今般の要請 20 件の内、6 件が日本語教師の要請である。地方でも日本語教育が行なわれており、毎年、各校における生徒数は増加している。

各校には日本人教師が数名在籍しているが、教師は「ウ」国に留学していてボランティアで日本語教師をしているケースと日本の大学などから派遣されているケースがある。留学生の場合、日本語教授法を習得していないことがほとんどであり、滞在も1年程度である。ウズベキスタン人教師は、日本語学科を卒業したばかりの若い教師が多い。要請先からは長期滞在(2年)ができ、他教師に対しても日本語コース確立に助言を与えてくれる日本語教授法の知識を持った「日本語教師」隊員の派遣が強く望まれている。

但し、今後の派遣計画については、来年、日本センターが設立されること、また、要請があった東洋学大学における日本外交協会の専門家とのデマケ等調整が必要なので、大使館及び関係機関との協議が必要である。

## 職業訓練：

政府は、国民専門養成プログラムとする大規模な職業訓練校の建設・整備計画を掲げて技術者養成に意欲的である。しかし、現在の職業訓練校の体制は、カリキュラムが市場の需要に反映したものとなっていないこと、教員の教授法が生徒の技術向上に資すものとなっていないことなどの問題が見受けられる。そこで、日本の最新の技術、知識を持った隊員の要請数は多い。

しかし、設備・機材の老朽化、不足が見受けられること、また、現在所有の機種はロシア製が多いので隊員では対応できない可能性もあるので、十分な調査が必要である。

### (2) 保健医療分野

「ウ」国は、旧ソ連邦時代の政策による社会システム及び経済システムを改善すべく、社会・経済復興政策を推進してきた。保健医療行政においても、新規開発計画として、看護婦の教育・訓練、近代医療環境へ適合するための医師・看護婦等の再教育などが推進されており、また、母子保健に高い優先度を置いている。日本もこれまで母子保健に重点を置いた政策を支援する形での無償資金協力の実績がある。

政府の努力により、改善は具現化されてはいるが、地方においてははまだ安全な飲料水の確保も困難な状態にあり、衛生管理・健康管理の不足が原因となる疾患は多い。

今後の地方展開においても、首都よりも地方では医療水準が低いことから、当該分野の隊員派遣は有効であり、「看護婦（士）」、「助産婦」、「保健婦（士）」の派遣が考えられる。

### (3) スポーツ分野

旧ソ連時代からスポーツは盛んであったが、独立以降も、スポーツには大きな関心があり、スポーツ振興法という法律もある。国民の健康強化、または選手養成のための隊員要請は多い。若者の60%が農村部に居住していることから、地方におけるスポーツ普及として、「各スポーツ職種」、「体育」の派遣が考えられる。

## 3-3 その他

イスラム教国であり、職種や地域によって性別が限定されることが予想されるので、要請背景調査時に任地での生活状況などを確認するよう留意が必要である。

### 3-4 事業展開 (案)

要請開拓	募集時期	11春 99.2 ～ 99.8	11秋 99.8 ～ 00.2	12春 00.2 ～ 00.8	12秋 00.8 ～ 01.2	13春 01.2 ～ 01.8	13秋 01.8 ～ 02.2	14春 02.0 ～ 02.8	14秋 02.08 ～ 03.2	15春 03.2 ～ 03.8	15秋 03.8 ～ 04.2
	新規要請	10	0	10	15	15	15	15	15	15	15
	年度要請	10		25		30		30		30	

隊員派遣	隊次	11/2 99.12	11/3 00.4	12/1 00.7	12/2 00.12	12/3 01.4	13/1 01.7	13/2 01.12	13/3 02.4	14/1 12.7	14/2 02.12	14/3 03.4
	新規派遣	3	7	0	5	5	7	7	7	7	7	7
	年度派遣	10		10			21			21		
	常駐派遣数	10		20			31			42		
	年度	11		12			13			14		

(1) 平成11年度2次隊の派遣にあたっては、調整員が3ヶ月前に(99.9)に派遣されることになる。隊員の受け入れ準備(現地訓練の選定等)、隊員配属先との最終調整(隊員の住居等)、平成12年度春募集の要請背景調査を行う。(ウズベキスタン事務所が99年3月に開設済)

(2) あらゆる分野で、ニーズが高いこと、隊員らしい活動が可能な配属先が多いこと、全土にわたって治安状態が良く地方展開が期待されていることから、事務所機能が一旦確立してからは、年間30件以上の要請開拓が可能である。(米国ピースコーは、92年から派遣が開始され、99年1月現在、80名が活動中、3月には100名になる予定)

(3) 平成13年度以降は、常駐派遣数が30名以上になり、早い時期に50名以上の体制となるものと考えている。従って、13年度には調整員1名体制から2名体制に移行することが考えられている。

#### \*事業展開の上での懸案事項

(1) 通信事情が非常に悪いので、地方展開にあつては緊急連絡網の早期確立が不可欠である。

## 4 調査概要

### 4-1 協議内容

1月12日 14:30～15:30

援助窓口：対外経済関係省（アブドゥラーエヴァ次官、イスラムボジャエヴ局長、ハジメトフ専門家）

- 1) 中島団長から、本調査団の目的及び調査方針を述べ、以下のとおり発言した。  
JICA事務所が今年3月に開設する予定である。JOCV派遣が開始されることにより、相互理解が益々高まり、日本と「ウ」の経済協力関係が一層高まると思われる。
- 2) アブドゥラーエヴァ次官から、以下のとおり発言があった。隊員が派遣されることは大変嬉しく思っている。日本の若者が活動する場合は、「ウ」国の若者が働く場所である。隊員がよい条件で活動ができるよう、当省はできることは行う。
- 3) 中島団長から、以下のとおり発言した。現在、JOCVは59ヶ国2,374名派遣されているが、平均年齢は27才である。今回の要請の中には、技術的に隊員のレベルでは高いものがある。隊員は配属先と一緒にになって創意工夫しながら活動するもので、技術は活動するための手段であり、技術移転が目的ではない。隊員は大卒で実務経験が2～3年しかないので、専門家ではない。隊員が手伝える場所に派遣したい。
- 4) アブドゥラーエヴァ次官から、以下のとおり述べられた。JOCVについて、昨年各省会議を開催したが、我々は高い技術を要求しているのではない。「ウ」国は共産主義から市場経済に移行した。新しい市場経済の思想を持っている日本の若者と交流を持ちたい。高い技術を持った専門家はJICAに別途要請したいと思っている。

1月12日 14:30～15:30

中高等専門教育省（グニャーモブ大臣他）

- 1) 中島団長から、調査団の目的及び今後の派遣に至る日程を述べた。
- 2) 大臣から、以下のとおり発言があった。各大学にはパンフレットがある。東洋学大学と経済大学には日本語をマスターした日本語教師はいるが、隊員は英語ができると良い。ロシア語ができればなお良い。3名しか派遣されないというのは少ない。アメリカンピースコーは、150名（数に誤りがある）活動しており、それに比べると非常に少ない。
- 3) 中島団長から、日本語教師は3名であるが、今回の調査では10件の要請の調査を行う。小さく産んで、大きく育てたい。現在、派遣中の隊員2,374名中、日本語教師隊員は170名である。今後の日本語教育が「ウ」国でどのように発展していくのか、我が方の派遣能力も含め人数を見極めていく必要があると考えている旨応答した。

- 4) 大臣から、以下のとおり発言があった。日本語教師については、2つの要因が関係する。1つは、日本側の投資がどうなるのか、2つ目は専門家の交流がどの程度あるのかである。国民専門家養成プログラム（予算額60億US\$）があり、職業訓練校を200校建設し、主に技術者を養成する。日本から機材を購入したい。この計画を成功させるには、日本語が話せる人材が必要である。日本から、経済学、教育学、鉱業分野や農業分野の専門家も派遣して欲しい。
- 5) 中島団長から、以下のとおり応答した。昨年12月にJOCV派遣のE/Nが署名され、ODAの扉が開かれた。隊員は平均年齢27才であり、豊富な知識、高度な技術力は持ち合わせていない。それらの分野は隊員のレベルではない。3月には、JICA事務所が開設されるが、協議の上、専門家を要請することは可能である。
- 6) 中島団長から、隊員は当地に着任後、1ヶ月の語学訓練が必要であるが、実施機関を推薦してもらいたい旨述べた。
- 7) 大臣から、以下のとおり発言があった。我々が開発したコースはある。1ヶ月のコースを設定することは可能である。また、隊員の住居については、学生寮を予定している。日本語教育の機材提供について、検討してほしい。
- 8) 中島団長から、どの程度対応できるか見極める旨応答した。

1月12日 17:45~18:50

保健省（ヤルクロブ次官他）

- 1) 次官から、以下のとおり発言があった。保健省は過去数年、無償援助など日本から協力を受けている。今回は隊員派遣ということで、非常に嬉しく思っている。
- 2) 中島団長から、調査団の目的及び今後の派遣に至る日程を述べた後、以下のとおり発言した。保健省の要請内容は非常に高いと思われる。日本の看護婦、助産婦はそれぞれの知識は持っているが、教授となると言葉の問題もあり、得意ではない。病院で一緒になって活動するのであれば可能である。特に、首都タシケントは、80年前にタシケント看護学校が設立されており、レベルが高いのではないかと。従って、滞在中に地方の病院を視察したいと考えている。
- 3) 次官から、以下のとおり発言があった。無償を実施した際も、問題は発生したが、両方で解決してきた。両者が納得していけると思う。要請先の国立第二医科大学と産科・婦人科科学調査研究所は技術力は高い。古い機材ばかりではない。研修事業や専門家派遣で既にJICA事業の経験を積んでいる。研究者や技術者と話して頂ければ問題は解決する。2つの研究所を選んだのも根拠がある。首都にあり、技術が高く地方からも学びに来る研修所になっている。技術力を地方に広げていける。私達は高い技術を要求しているのではないが、そのような責任あるアプローチをしてくれたことに感謝している。
- 4) 中島団長から、以下のとおり質問した。「ウ」国の疾病として成人病が多いがそれを回避するには、食生活の改善が必要ではないか。栄養士隊員と料理隊員をセットで派遣して、地味ではあるが貢献できる活動だと思うが如何か。

- 5) 次官から、以下のとおり回答があった。非常に的を得た分野である。これについて、述べるには時間が足りない。栄養に関しては、中央アジア、特に女性の深刻な問題である。栄養の問題から起こる心臓病、腎臓病、肝臓病などの保健省の研究所がある。女性は特に貧血の問題が多い。栄養センターが設立されているので、日本の料理隊員については、要請は考えていない。

1月13日 10:00~12:30

世界経済外交大学（アリモブ副学長他）

職種：日本語教師

- 1) 副学長から、以下のとおり発言があった。既に日本人教師が3名いる。日本語受講希望者が多すぎて要望に応えられていない。日本の無償協力（JICS）で日本語学習センターが設置される。予算額は、30万US\$である。そのためにも、日本語教師は必要である。昨年、JICAから調査団が派遣され、その際、国際経済財政専門家の派遣を要請した。日本語教育だけでなく、このような分野を教えてくれる人材が欲しい。その後、回答がないが現在どのような状況なのか。
- 2) 中島団長から、以下のとおり応答した。JICAには18部署があり、それぞれの部署が責任を持って調査を行っている。調査団への口頭要請ではなく、正式ルートを通じて、日本大使館に文書で要請が提出されなければ、検討はできない。今年3月には、JICA事務所が設立されるので、今後は密接に連絡を取り合って要請を上げて欲しい。
- 3) 全校生徒1,040名（大学院80人）のうち、日本語学習者は第1外国語として20名（3グループ）、第2外国語として約30名（5グループ）である。隊員は2グループを担当する。隊員住居は学生寮が提供される。
- 4) 副学長から、KOICAのボランティアは、機材を無償で供与しているとして、隊員が派遣される際には、教科書とコピー機を供与するよう要望があった。
- 5) 中島団長から、以下のとおり応答した。JOCVでは隊員が派遣される際にそのような機材供与は行っていないので困難である。
- 6) 機材については、強い要望があったが、現在使用している教材には問題はなく、JOCV事業の理解が得られた。



1月13日 13:45～15:35

タシケント国立経済大学（ルトフラエブ学長代理他）

職種：日本語教師

- 1) 学長代理から、大学概要が以下のとおり説明された。当大学は、経済専門家を養成しており、中央アジアで1、2の経済大学である。カリモフ大統領、中高等専門教育大臣も卒業生である。大臣は以前学長でもあった。各地方にも、支部校があり、経済分野の教員に対する再教育コースなども行っている。各付属機関もある。日本の東北大学、一橋大学とも交流があり、日本の教授が2名活動している。海外の大学とも交流はあり、協定を結んで、学士の資格を共通にしている。当大学は英語が第1外国語、第2外国語としてスペイン語、ドイツ語、仏語があり、外国語講座として、日本語コース（学習者25名）がある。
- 2) 中島団長から、日本語教育が開始された経緯について質問した。
- 3) 学長代理から、以下のとおり回答があった。日本語コースは昨年からは開始され、主な目的は、大学で経済学を学んだ後、日本へ留学するためである。日本は先進国であり、3年前から日本の大学と経済学共同研究も行っている。カリモフ大統領基金があるが、その目的は才能がある学生を育成すると共に、教師の教授能力を高めるための資金である。希望として、本基金を通じて、日本へ学生を送りたい。
- 4) 学長代理から、昨日、中高等専門教育大臣からJOCVの現地語訓練の実施の可能性について話があったが、ロシア語、ウズベク語の語学訓練のアレンジができる旨発言があった。
- 5) 中島団長から、現地語訓練の申し出に対し、感謝の意を述べると共に、JICA事務所が今年3月に開設されるので、我が方から協力依頼があった場合は、協力願いたい旨依頼した。

1月13日 16:00～18:30

世界言語大学（ヒサモブナ副学長他）

職種：日本語教師

- 1) 副学長から、以下のとおり発言があった。当校では、3年前(96年)から、日本大使館の協力により、日本語センターが開設された。付属機関（リッセ）にも日本語コースがあり、2名の日本人ボランティアが教えている。大学の全生徒数は5,000名、2年生から日本語を学ぶことができ、日本語学習者総数57名（4グループ）、ほぼ全員初級者である。日本語教師は1名の日本人ボランティアと1名の「ウ」国教師がいる。隊員には2、3年生を担当して欲しい。住居は学生寮を提供する。
- 2) 小田中団員から、隊員の条件として教授経験5年以上とあるが、そのような条件の応募者はかなり少なく、初級レベルであれば、日本語教授法を習得した人で対応可能と思われるが如何かと質問した。
- 3) 副学長から、教授経験はあった方がいいが、希望であり、教授法を習得していることを条件とする旨理解を得た。

1月14日 9:00~12:45

タシケント国立第二医科大学（カリモブ学長、ザキズォジャエンセンター長他）

職種：看護婦

- 1) 学長から、大学の概要が説明され、以下のとおり発言があった。大学の敷地内に病院部があり、小児科、産婦人科、内科、外科などの病棟がある。シカゴ・イリノイ医科大学とは現在まで6年間、人材育成、機材供与、情報交換等で協力関係にある。また米国保健健康連合、スペインや英国の王立大学、北海道大学、京都大学とも交流がある。
- 2) 中島団長から、JOCV派遣の現況と日本の看護教育制度について説明した。
- 3) 学長から、以下のとおり発言があった。「ウ」国は若い年齢層が60%を占めておりJOCVが派遣されるのは有益である。小児科の経験がある看護婦隊員に授業を担当してもらいたい。
- 4) 中島団長から、大学で看護技術について授業を受け持つことは、隊員にはレベルが高いが、病院で共に働きながら、持っている知識や技術を教えることは可能である旨述べた。
- 5) 大学側はJOCVの活動を理解し、病院部の小児科病棟（130床、小児科医師教官15名、小児科医師30名、婦長12名、看護婦115名、医療従事者60名）へ看護婦隊員を要請する旨述べられた。
- 6) 内科栄養学（食事療法）センターを訪問した。センター学長から、以下のとおり概要が説明された。3年前に設立され、豆類を多く使った「ウ」国独自の食事や塩にヨウドを混入するなどの研究をしている。食事療法の冊子を作り、全国に配布している。
- 7) 中島団長から、合理的に栄養を摂取できるように、隊員が活動できる場はないかと質問した。
- 8) センター長から、以下のとおり回答があった。旧ソ連時代、モスクワで同様の研究をしていたが、「ウ」の食材で開発しなければならない。栄養学の分野の技術があっても、機材がない。日本から栄養専門家や内科病棟に食事療法の知識を持った看護婦が欲しい。日本には栄養学の専門家を養成する学部があると聞いているが、「ウ」国にはそのような学部はない。
- 9) 中島団長から、専門家レベルの要請になるので、今年3月に開設されるJICA事務所と協議して欲しい旨述べた。

1月14日 13:45～15:30

タシケント無線技術専門学校（トジエヴ校長他）

職種：電子機器

- 1) 副学長から、以下のとおり発言があった。大統領令ではタシケントに3つの通信技術学校を開校することになっており、本校は昨年9月に開校した。現在、学校の修理を行っており、今年春には完了する。修理場には機材がなく、「ウ」国政府が2000年までには必要な機材の一部としてロシア製を調達してくれることになっている。その他の機材については、どこの製品になるかは不明である。
- 2) 中島団長から、どのように隊員の活動を期待しているのか質問した。
- 3) 副学長から、以下のとおり回答があった。学生（15～17才）に無線機の生産と修理を教えることを希望している。現在は、機材がないので理論だけになっている。
- 4) 中島団長から、以下のとおり発言した。電子機器隊員となるが、教室でソ連時代の教科書を使用して学生に授業を行うには隊員には語学の面からレベルが高いと思われる。機材を使って実習の授業を行うことはできるが、その場合、隊員が派遣される前に使用する機材の機種名や型式などを知っておくことが必要不可欠である。従って、本要請は継続検討案件としたいので、機材が整備出来次第、今年3月に開設されるJICA事務所と再度協議して欲しい。

1月14日 16:00～18:00

タシケント東洋学大学（ナサロヴ副学長、パク学科長他）

職種：日本語教師

- 1) 副学長から、以下のとおり大学の概要が説明された。1991年に大統領令によって創立され、それ以前はタシケント総合大学東洋学部であった。学部は4学部、言語学（日本学科）、歴史学、経済学、朝鮮学部がある。中央アジアで初めて日本学科を開講した。
- 2) 日本語学科長から、以下のとおり発言があった。日本語学習者は188名（日本学科100名、歴史学部20名、経済学部68名）である。日本語教師は日本人5名、「ウ」国人5名であるが、教師数は不足している。教師1名で、平均週15時間を担当している。隊員の住居は学生寮を提供する。
- 3) 尚、本要請については、現在、国際交流基金から日本語教師専門家が2名派遣されていることから、隊員の派遣については、本邦にて関係機関と協議が必要である。

1月15日 10:00~12:00

産科・婦人科科学調査研究所（ミトリエブナ所長）

職種：助産婦

- 1) 中島団長から、以下のとおり質問した。現在、活動中の隊員は2,374名である。そのうち、助産婦隊員は28名である。「ウ」国の助産婦のレベルは高いと思うが「ウ」国の助産婦はどのような教育制度を経てきているのか。
- 2) 所長から、以下のとおり回答があった。99年から始まった教育では、大学卒業後、助産技術について3年間勉強する。原則として、医療行為は行わないが、管理的な業務ができるようになる。現在、働いている助産婦は義務教育の後、医学校（4年間）を卒業した人達である。
- 3) 中島団長から、日本の助産婦の教育制度等を説明した。
- 4) 所長から、以下のとおり発言があった。日本の新生児の死亡率が低いことを知っている。研究所は先輩の助産婦が多いので、新しい知識・技術を取り入れたい。当研究所は、200床（110床産科、90床婦人科）、医師160名（研究者含む）、看護婦203名（内助産婦約70名）、保健婦2名が在籍している。通常、助産婦は1日勤務し、2日休みとなるが、隊員は日勤でも構わない。
- 5) 隊員の住居については、所長から保健省に依頼して、医学校の学生寮を提供できるようにしたい旨述べられた。中島団長からも、対外経済関係省や保健省に協力してもらえよう依頼する旨述べた。

1月15日 14:00~17:00

国家体育スポーツ委員会（ツヤガノヴ議長第一代理他）

職種：空手、バレーボール、卓球、体操競技、柔道

- 1) 議長代理から、以下のとおり発言があった。委員会には各種競技40協会が登録されている。「ウ」国には5つの体育学院があり、14行政区、12州の行政部にスポーツ部がある。委員会の目的は、国民の健康強化、スポーツマンの養成である。各隊員の住居は、委員会が責任を持って各協会から提供させる。
- 2) 空手隊員は、普通学校の生徒に対する活動となる。生徒は全員白帯である。空手協会には約100名のトレーナーがいる。6段が1名、5段が3名、4段が4~6名、3段が6~7名、2段が15~20名、初段が80名である。隊員には松涛館流3段程度を希望する。
- 3) バレーボール隊員は、バレーボール協会付属スポーツ学校のバレーボール部（300名コーチ20名）や、普通学校の生徒に対する活動となる。
- 4) 卓球隊員は、普通学校の課外授業を担当する。週18時間程度、1グループは6~10名である。
- 5) 体操競技隊員は、鉄道職員の子供が通う普通学校付属スポーツ学校で活動する。朝と午後が体操の授業となる。生徒は5~18才まで200名、トレーナーは10名いる。

- 6) 柔道隊員は、タシケントから30km離れたChirchiq (チルチック) 市 (柔道が盛んである) のスポーツ学校で活動する。生徒数は150名、柔道生徒 (13~18才) は40~50名、コーチは6名、週24時間の授業がある。ブルーシート (要請書) では女性希望とあるが間違いないか確認したところ、男性を希望する旨回答があった。また、条件として体育大学卒業とあるが、必ずしも体育大学卒業でなくても問題ないか確認したところ、了承を得た。
- 7) 各職種とも、1校のみならず他校も兼務することや更に高いレベルでの活動が期待されている。
- 8) バレーボール、卓球の責任者から用具の供与について強い要望があったが、隊員活動について説明したところ理解が得られた。

1月16日 11:00~12:00

地方クリニック視察：ヤンギール地区中央病院TMO (ベシエロヴ副主任医師)

- 1) 病院の概要は以下のとおりである。ヤンギール地区の産科専門病院、医師6名、看護婦24名、助産婦16名、20床、出産数月約170名。機材は最低限度整っている。半径50kmの地区をカバーしており、中央病院の下に副地区病院があり、その下に医療ポイントと呼ばれる診療所がある。

#### 4-2 他国援助機関の動向

KOICA (ハン代表)

1月19日 10:00～11:00

- 1) 1ヶ月の生活手当では、ドルで350US\$を隊員に支給している。
- 2) 住居は、韓国語の教師は大学等の学生寮が「ウ」国側から手配(無料)されており、「ウ」側が手配できなかった小学校に配属されている1名の隊員は、タシケントで150US\$の住居をKOICAが手配している。
- 3) 通信手段としては、各隊員の住居や配属先に電話がある。3名を地方に派遣しているが、隊員同士で週に2～3回は連絡を取り合うようにしている。
- 4) 語学訓練は、「ウ」国から先生を招聘して韓国で2ヶ月、「ウ」国では2週間から1ヶ月主に「ウ」国の歴史や文化等を学んでいる。
- 5) 年間の隊員派遣数は、96年には10名であったが、予算の関係上、年々減少しており、今年は5名程度になる。
- 6) 職種について、当初はあらゆる分野に派遣しようとしたが、在「ウ」韓国人が多いので、既に各分野に韓国人の専門家がいること、また、在「ウ」韓国人の子弟に対する韓国語の教師の要請が高いので、韓国語教師隊員が中心に派遣されている。
- 7) IDカードは、政府から発行されているが、KOICAは援助機関として登録していない(韓国大使館の一部としている)ので、米国ピースコーとは異なるIDカードである。但し、国内旅費が25%割引になるようになっている。
- 8) 隊員が利用する病院については、韓国人医師がいる病院を利用している。当地で処置できない場合には、AEA SYSTEMに登録しているので、韓国まで運ぶことになる。

米国ピースコー (ハートマン所員)

1月19日 11:30～12:00

- 1) 現在、80名の隊員(英語、企業経営等)が活動しており、今年3月から新たに医療関係(保健、看護婦、医療管理)の隊員が25名派遣される。
- 2) 海外手当では、現在、10,000ソム、今年の夏の改定では14,000ソム位になるだろう。
- 3) 語学訓練は、派遣前にはウズベク語のビデオとカセットを渡しており、「ウ」国では、地方(グルスタン)に施設を借りて11週間1日3～4時間の授業を行っている。
- 4) 当事務所には、24時間体制の医師がおり、ほとんどは診療できる。深刻な場合は、米国に運ぶことになる。
- 5) 事務所は5名のアメリカ人所員、22名の現地職員が在籍している。

#### 4-3 事務所関連

(主に対外経済関係省、他援助機関、日本人専門家からのヒアリング)

##### (1) 事務所物件、現地傭人雇用等

総務部から、ウズベキスタン事務所開設準備調査団が平成 11 年 2 月 6 日から 2 月 14 日の 9 日間に亘り派遣され調査が実施されている。別途、報告書あり。不動産業者があり、日本大使館と対外経済関係省を通じて物件の候補が出ている。現地傭人雇用は、紹介・推薦や新聞広告による公募の方法がある。平成 11 年 3 月に、ウズベキスタン事務所が開設され、所長、所員 1 名が派遣される。

##### (2) 現地語訓練

語学訓練先として、大学で語学コースを実施することは可能である。中高等専門教育大臣がタシケント国立経済大学に語学コースの実施の可否を問い合わせたところ、露語、ウズベク語の 1 ヶ月間の語学・文化講座のアレンジが可能である旨回答があった。なお、ピースコーは、地方（グルスタン）に施設を借り、村落にホームステイするなど独自のプログラムを実施している。KOICA(KOV) は、韓国で「ウ」国から講師を招聘して 2 ヶ月間の語学訓練をし、「ウ」国では、大学などから講師を招いて歴史や文化を学んでいる。

##### (4) 調整員の住居

(1)と同様、不動産業者を通じて探すことになる。1,200US\$~2,000US\$が相場と思われる。

##### (5) 隊員の住居

ピースコーの住居は全て配属先が手配している。また、KOV も韓国語教師は大学の寮などを配属先が手配しているが、1 名（小学校配属）だけ「ウ」側が手配できなかった隊員に対しては、KOICA が 150US\$で住居を手配している。協力隊の要請先も寮などを手配してくれることを約束しているので心配ないと思うが、将来、協力隊が住居費を設定する必要が生じることは考えられる。タシケントで一人用のアパートであれば、100~200US\$で借りることができる。

## 4-4 生活環境

### (1) 市内交通事情

電車、地下鉄：駅の管理は行き届いており、市内の移動に便利でよく利用されている。利用にあたってはジェットンというトークンを切符売り場買い自動改札に入れる。乗り換えは自由で統一料金。

バス、路面電車：市民の足として縦横に走っている。それぞれ行き先と番号が表示してあり、路線図が入手できないので路線を覚えないと利用しづらい。ワンマンで、下車時に運転手に直接支払う。市内統一料金。

タクシー：タクシースタンドもあるが、タクシーがスタンバイしていることはほとんどない。ホテルに待機しているものか流れのタクシーを利用する。タクシーは新しいものには屋根にタクシーの表示板をつけており、車体も黄色に塗られているので区別しやすい。料金メーターがないものが多く事前に交渉する必要がある。予め、おおよその運賃をつかんでおいた方がよい。ホテルには白タクもいるが、事情を知らないと法外な金額を請求されることがあるので注意が必要である。

### (2) 医療事情

夏季は摂氏 40 度、冬季はマイナス 20 度になる。夏季は食べ物に注意が必要である。

医療機関：国連諸機関及びアメリカ大使館の共同プロジェクトとして、タシケン ト国際メディカルクリニック (Tashkent International Medical Clinic:TIMC) が設立され、外国人のみを対象として診断・治療が行なわれている。日本大使館も法人会員として登録済である。

簡単な外科手術は可能であるが入院設備はないため、入院が必要な場合の地元病院との交渉補助、また緊急移送補助を行なっている。地元病院の医療水準はある程度の水準に達しているものの、医療機材は旧式なものが多く薬品も不足していることから、比較的簡単と思われる手術であっても緊急移送 (OTAS) を利用してヨーロッパや日本へ移送することが望ましい。

予防接種：入国時に必要とされる予防接種はない。

赴任時に考えられるもの：破傷風、狂犬病、ジフテリア、A 型肝炎、B 型肝炎、日本脳炎 (ピースコーは地方で活動しているので、破傷風、狂犬病、ジフテリア、A 型肝炎、B 型肝炎、髄膜炎、ポリオなど 9 種類のワクチンを受け、更に毎年ツベルクリン反応 (結核の皮膚テスト) を実施している。)



(3) 治安状況

統計上は CIS 諸国の中では最も少なく、治安当局の力が強いこともあり凶悪犯罪はほとんど報じられない。しかし、最近タシケント市内でも一部の地域で泥棒、強盗等が増えている模様である。夜間外出そのものは、市内であれば、一部の場所を除き問題はない。

(4) 電 話

電話事情は非常に悪く市内の一般回線はつながりが悪い、雑音、混線がひどく途中で電話が途切れることもある。

(5) 郵 便

日本との往復とも届いたとしても3～4週間を要する。発信に問題があり、日本に届かなかつた、或いは、6ヶ月経て届いた等の話しが少なくない。また、小包は途中開封され、場合によっては中身を抜き取られたりすることもある。

(6) インターネット

98年1月に個人が契約した際、登録料は20,000スム(約1万9千円)、月使用料1,600スム(約1,500円)、1時間800スム(約700円)であった。

## 隊員月額生活費

国名 ウズベキスタン

1 US \$ = 128 Som

支出項目	品目	数量・単位	単価(現地通貨)	US \$ 額	備考(補足説明等)
被服費	運動靴	1足/12月	4,200		靴下 780
	下着(シャツ、パンツ)一式	一式/6月	2,000		防寒ブーツ(女) 14,000
	Yシャツ(通勤用)	1枚/6月	1,800		防寒ブーツ(男) 30,000
	ブラウス(通勤用)	1枚/6月	2,500		
	Tシャツ	1枚/6月	1,500		
	ズボン又はスカート(通勤用)	1着/24月	3,500		
	ジーンズ	1着/24月	5,200		
	防寒着(オーバーコート類)	1着/24月	35,000		皮コート(裏スウェード) 50,000
	防寒着(セーター)	1着/24月	15,000		
	雨具(雨合羽)	1着/24月		200	
	その他の衣類				
食費	自炊	1ヶ月		100	韓国醤油(1L) 350、バター(250g) 140
	外食	1食	300(現地食)		ケーキ(1コ) 150
	下宿支払い				スパゲッティ(450g) 80
光熱費	電気代(月当たり使用量)	1kw37kWh/200	600		* 光熱費は通常家賃或いは寮費に含まれており、試算は目安である。
	水道代( " )	年間	5,000		
	ガス代( " )	年間	7,000		
	灯油代( " )				
日用品	石鹸	1個	90		掃除機 38,500、TV14インチ 79,200
	シャンプー(250ml)	1本	375		アイロン 22,000、電子レンジ 55,000
	歯磨粉(70g)	1本	200		
	トイレトペーパー	1巻	35		
	洗濯洗剤(250g、 )	1箱(本)	125		
	その他の日用雑貨(消耗品)				
	食器(大皿、小皿、スプーン、フォーク、コップ、カップ等)	1式 5人分	33,000		
	シーツ	1枚/12月	500		
	ブランケット	1枚/24月	1,000		
毛布(掛けぶとん)	1枚/24月	5,000			
嗜好品	コーヒー(200g程度)		480		
	清涼飲料水(コーラ等)		200		
	ミネラルウォーター(1.5l)		150		
交通費	バス代(市内料金)		15		
	タクシー代(市内料金)		200		
	ガソリン(単車貸与者)	1リットル	45		
通信費	国際郵便	日本	50		
	国内郵便		40		
	国際電話	日本へ10分	2,000		
	国内電話				
交際費	冠婚葬祭等			100	
教養費	新聞	年間	4,000		
	週刊誌	ウズベク語	100		
	語学学習費(書籍)		400		
その他	散髪(パーマ代含む)	ホテル	700		
	映画		300		
	文房具				
	国内小旅行				
	フィルム(24枚撮)	1本	950		
	現像代(24枚撮)	1枚64/24枚	1,710		
	銀行引出し手数料	1回400\$引出		1.6	* 米ドル建て口座からスム建て口座 手数料0.4%
	備蓄用食料・飲料水				
	電球	1個	40		

\* 食費(外食)は一般人が利用するレストラン等での平均的定食1食あたりの価格を記入。

\* 国の事情により不必要な物(防寒着等)は記入不要です。

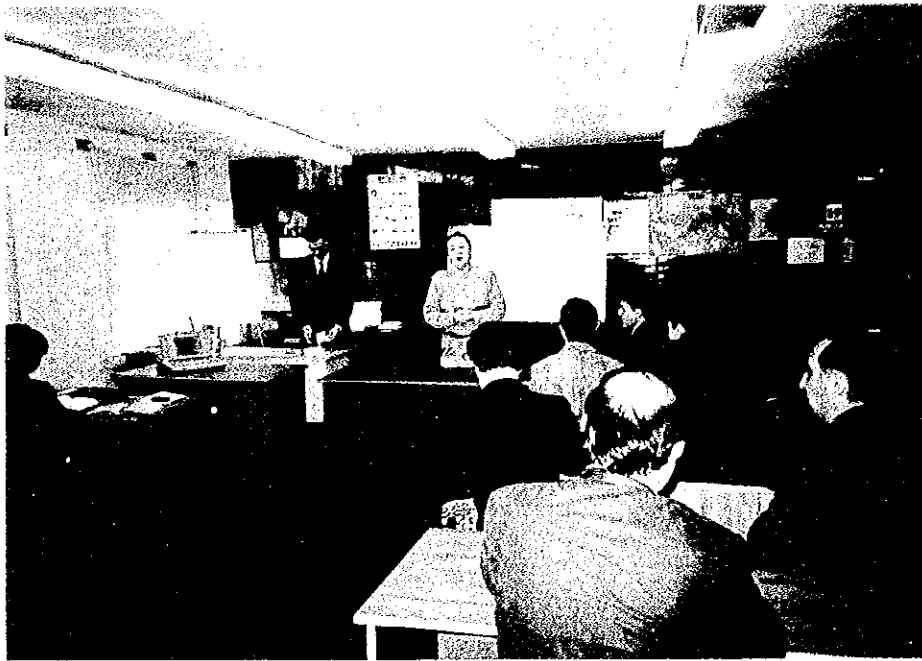
\* 耐久品及び数カ月に1度必要な物については次のように記入。(記入例:運動靴を1年に1足購入→「1足/12月」)

\* 任国の事情により、特に多く必要な物品、或いは高額だが必要不可欠な物品がある場合はその積算根拠・理由を補足すること。

タシケント市内



対外経済関係省との協議



世界経済外交大学

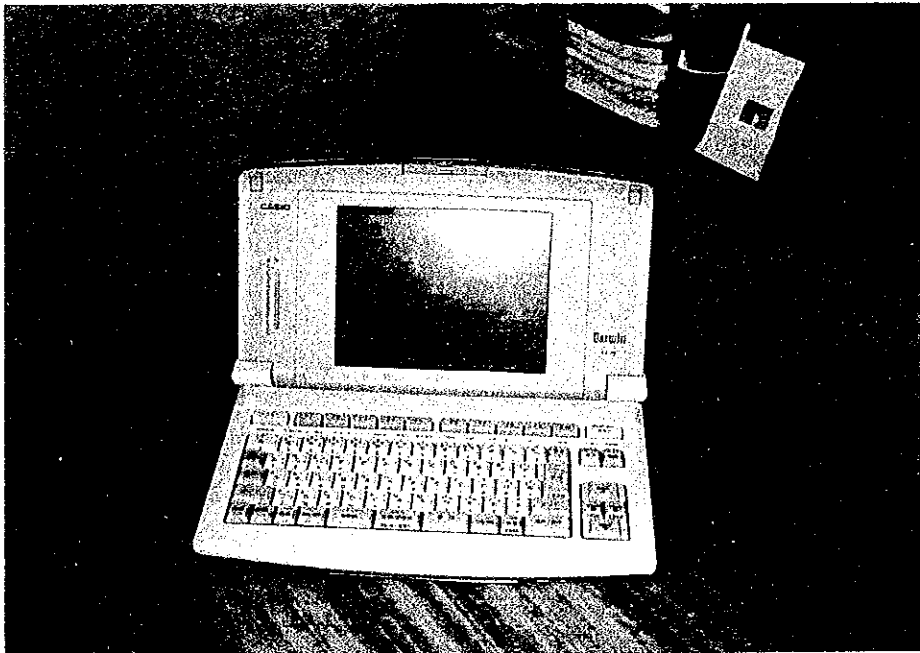


教材

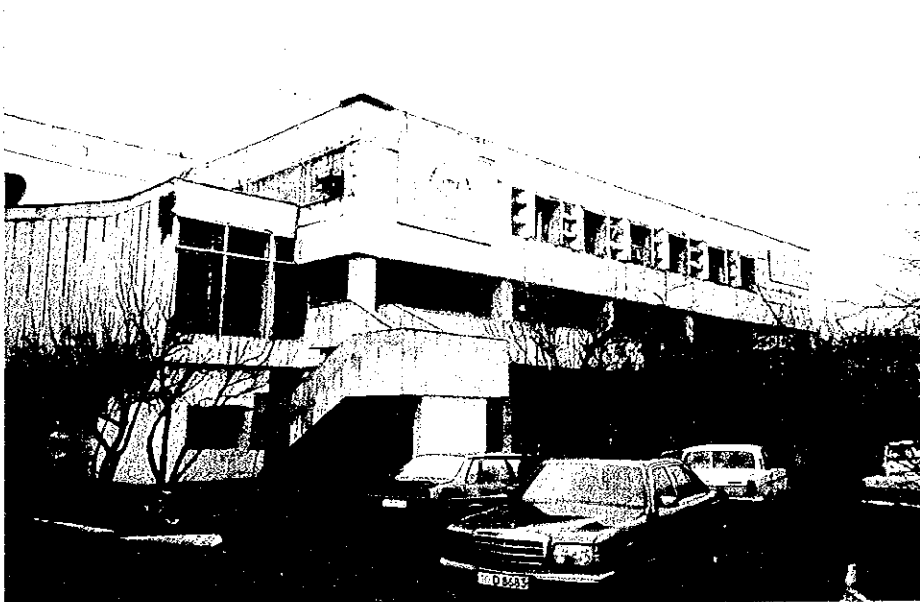


世界経済外交大学

教材



ワープロ



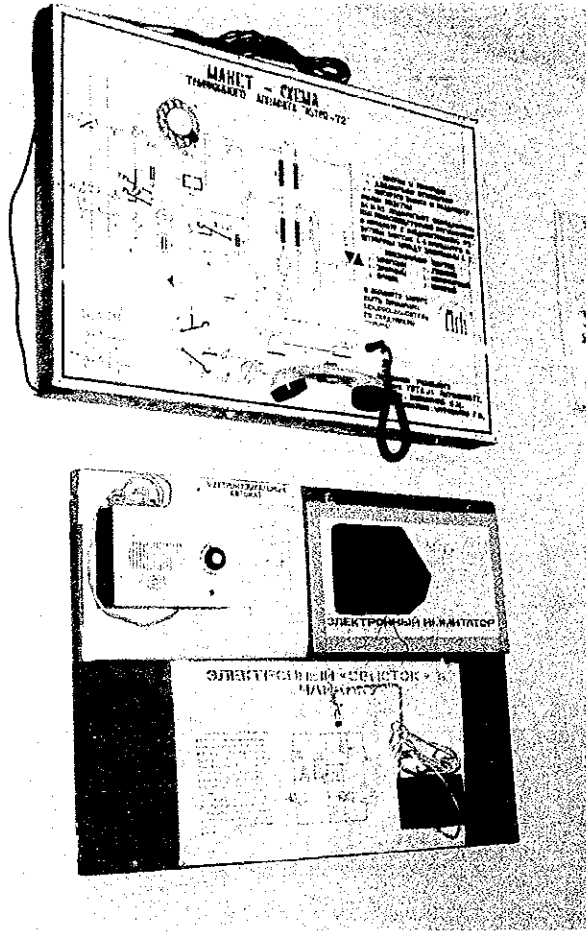
世界言語大学



世界言語大学

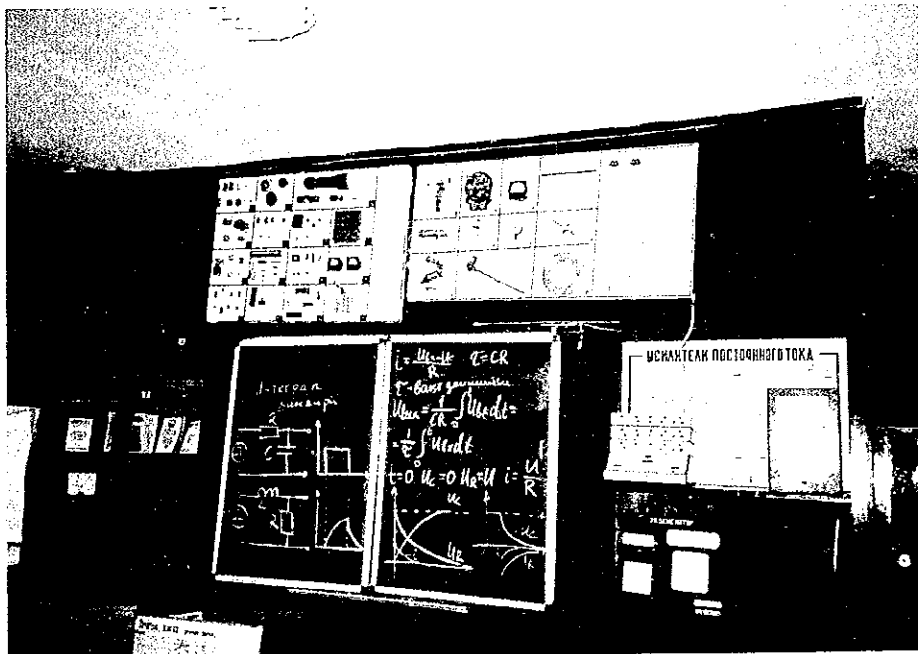


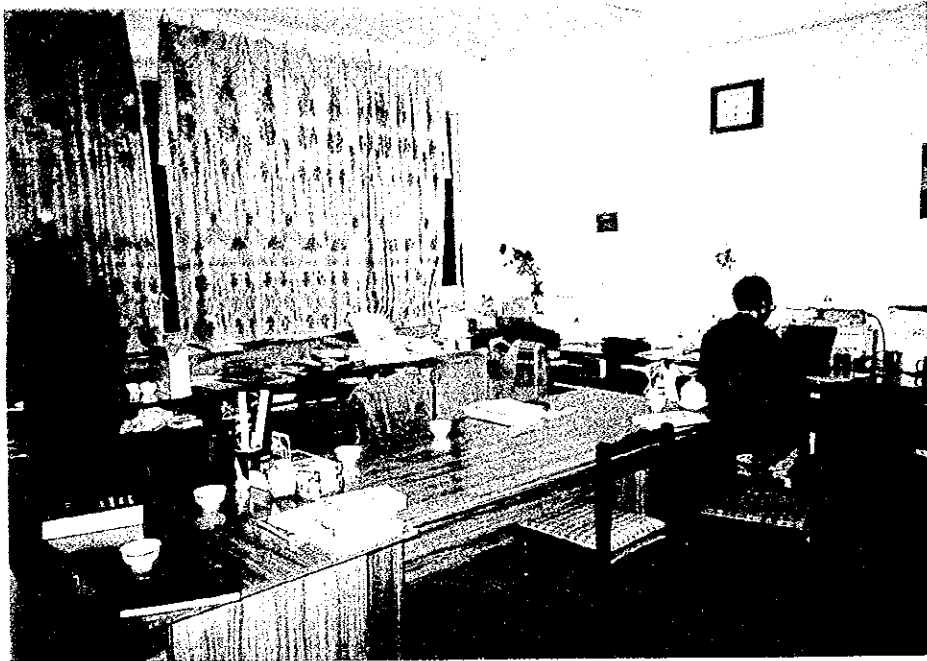
教材用TV、カセット  
図書



タシケント無線技術専門学校

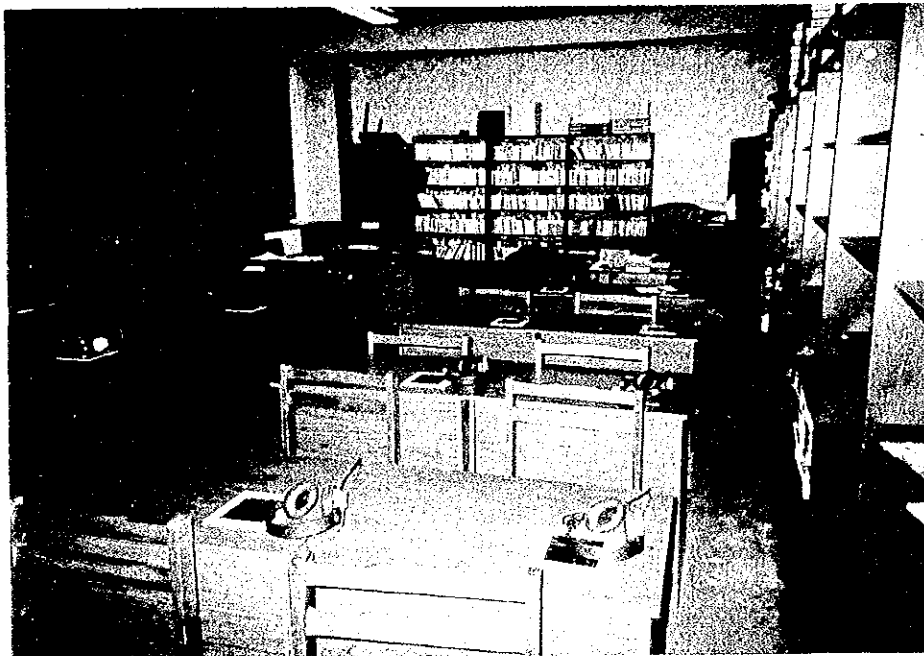
教材





タシケント国立東洋学大学

講師控え室



LL教室



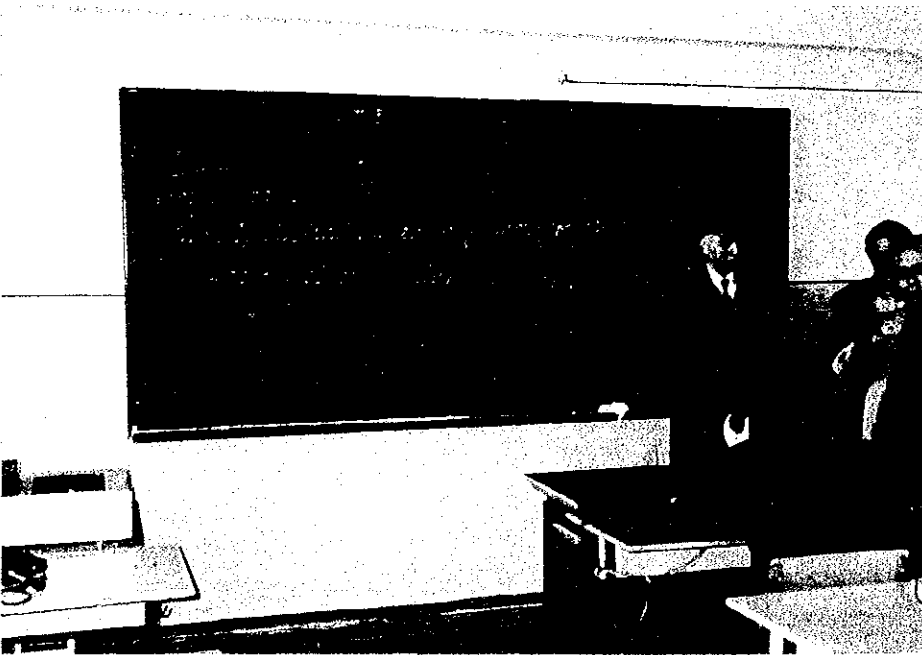
日本語教室



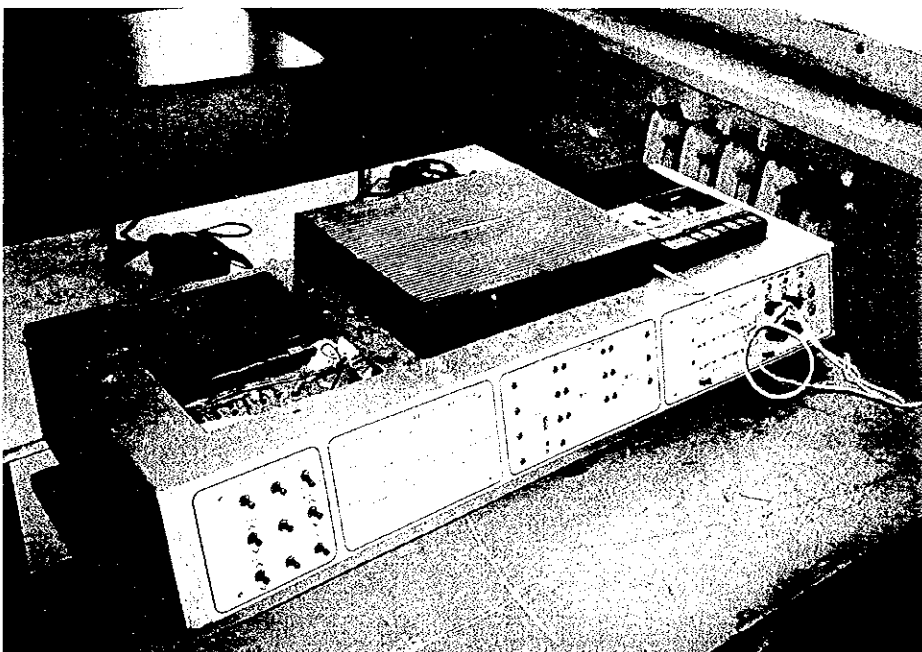


タシケント国立経済大学

教師控室

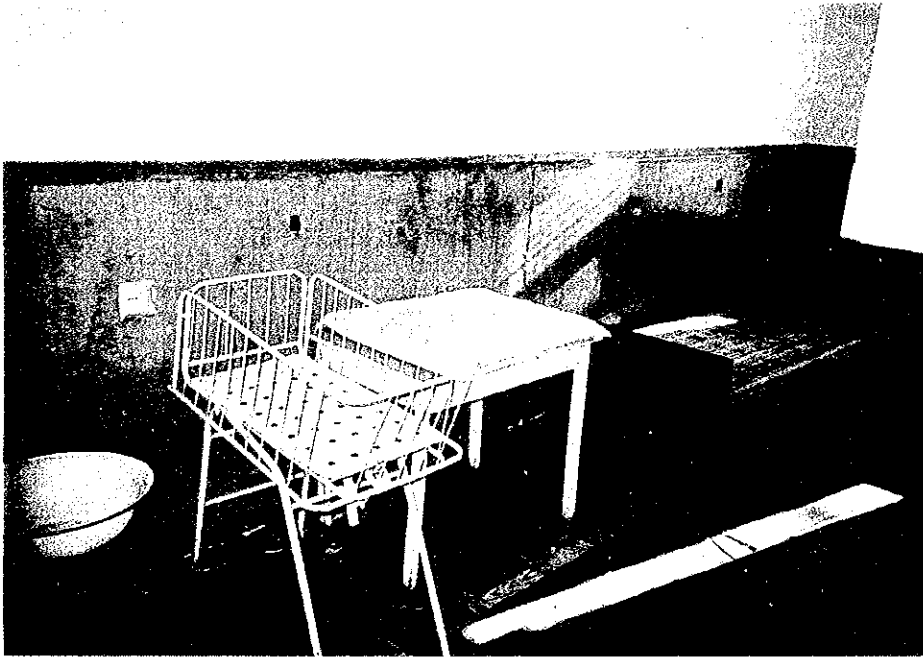


黒板



教材用機材

病室



分娩室

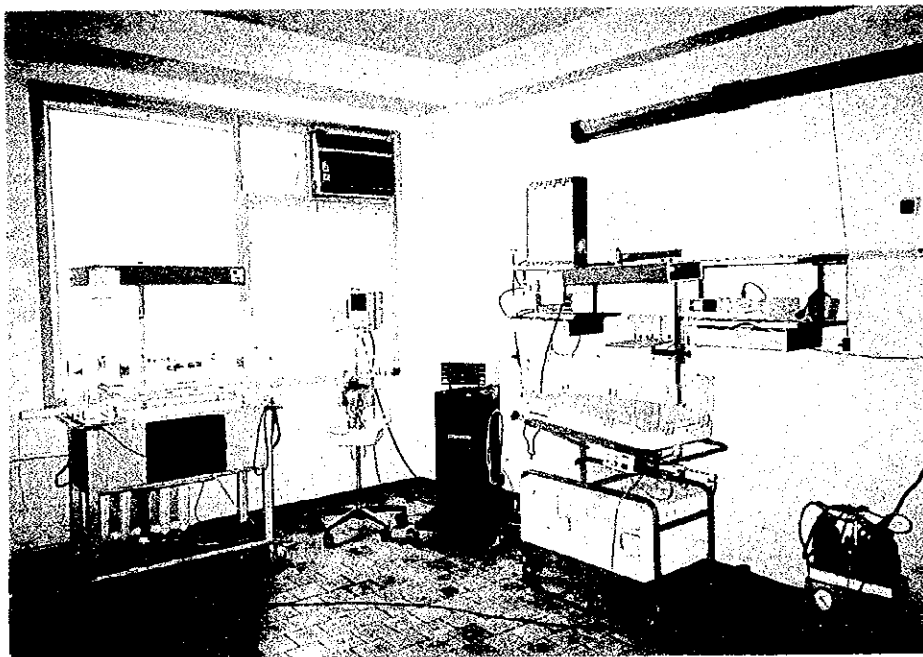




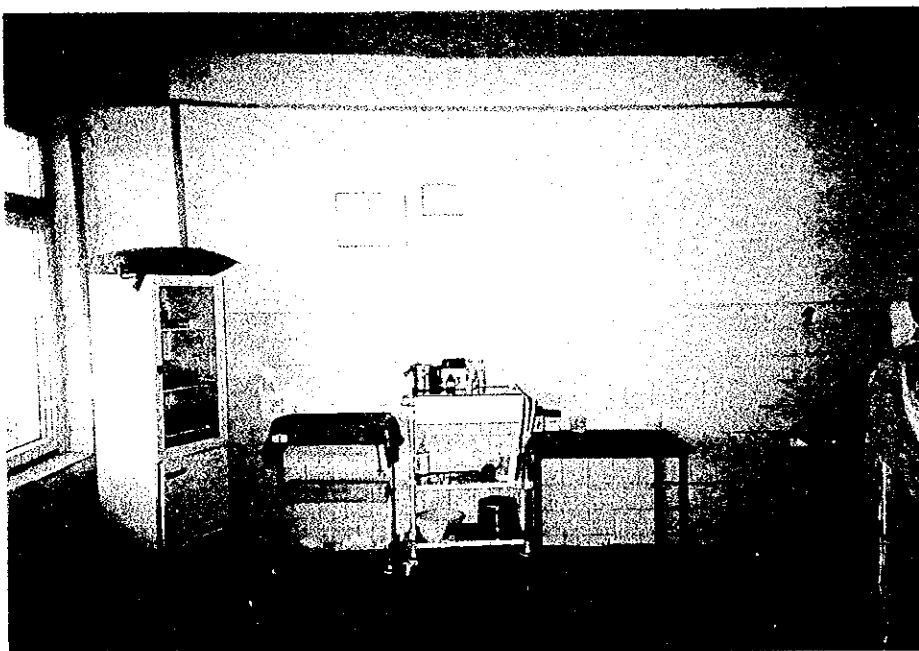
医療機器



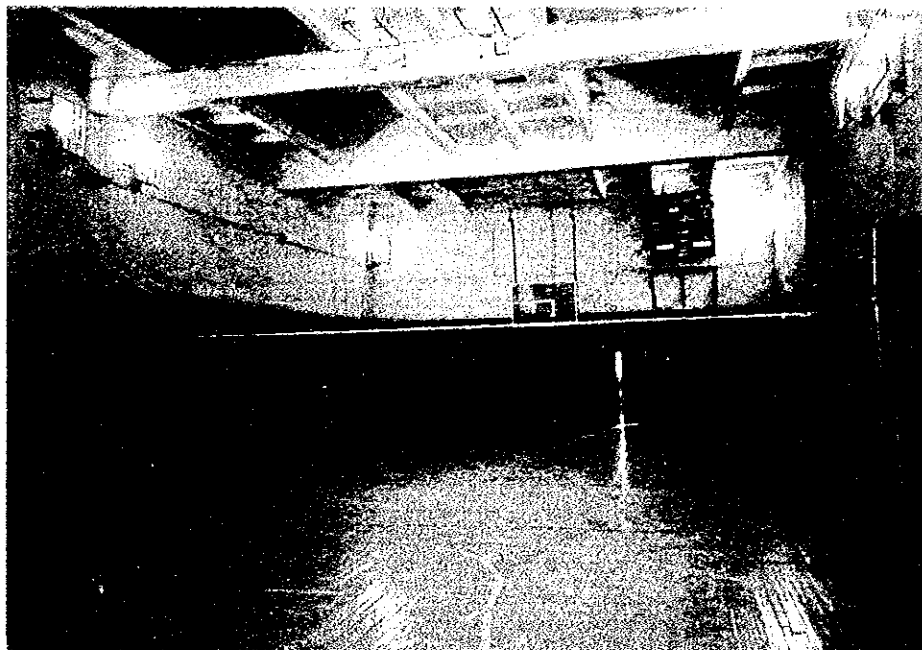
病室



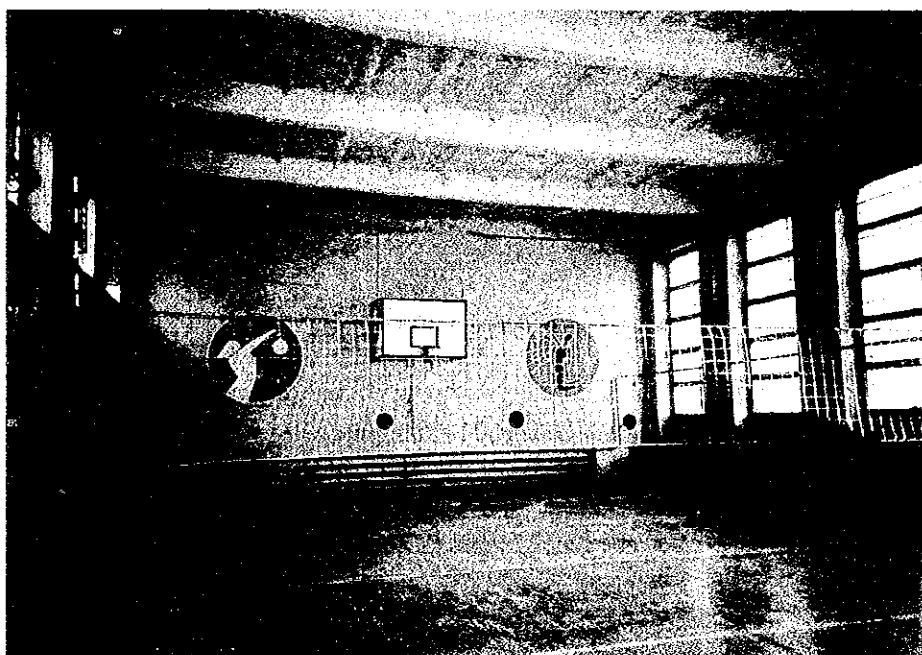
医療機器



国家体育スポーツ委員会



バレーボール  
バレーボール協会附属スポーツ学校  
バレーボールコート



普通学校の  
バレーボールコート

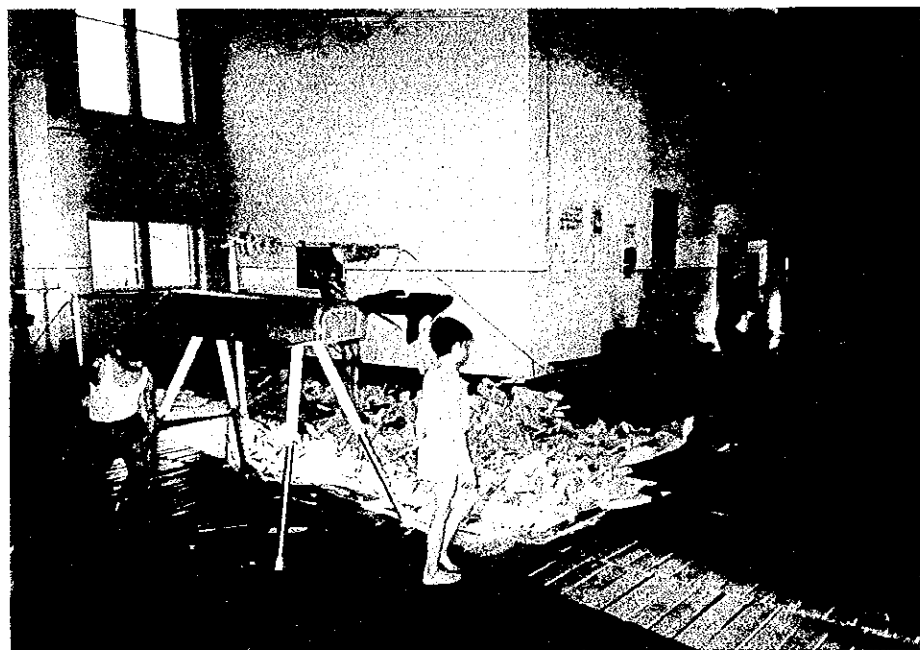
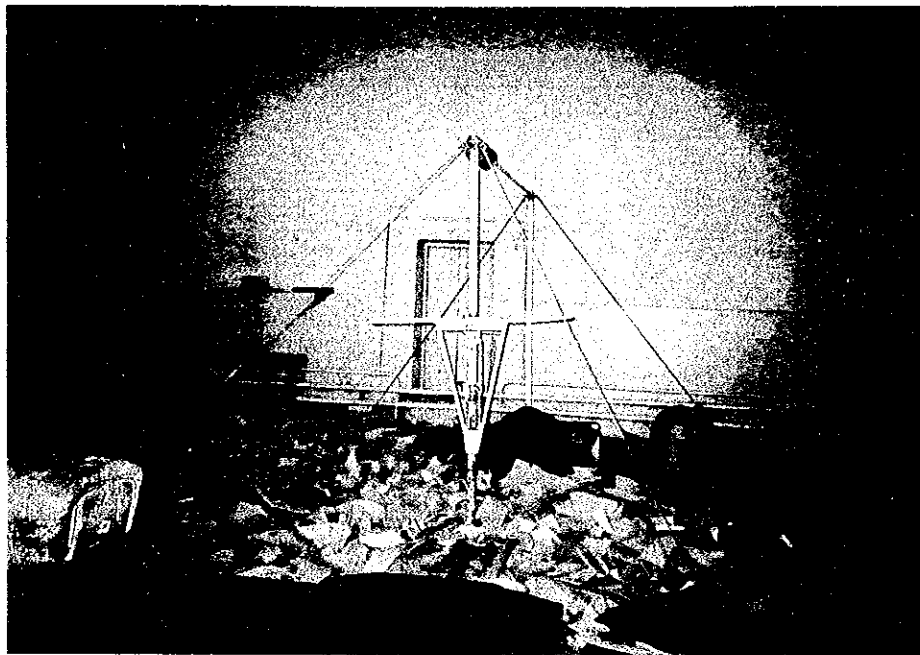


卓球  
普通学校にある  
卓球トレーニング用具



国家体育スポーツ委員会

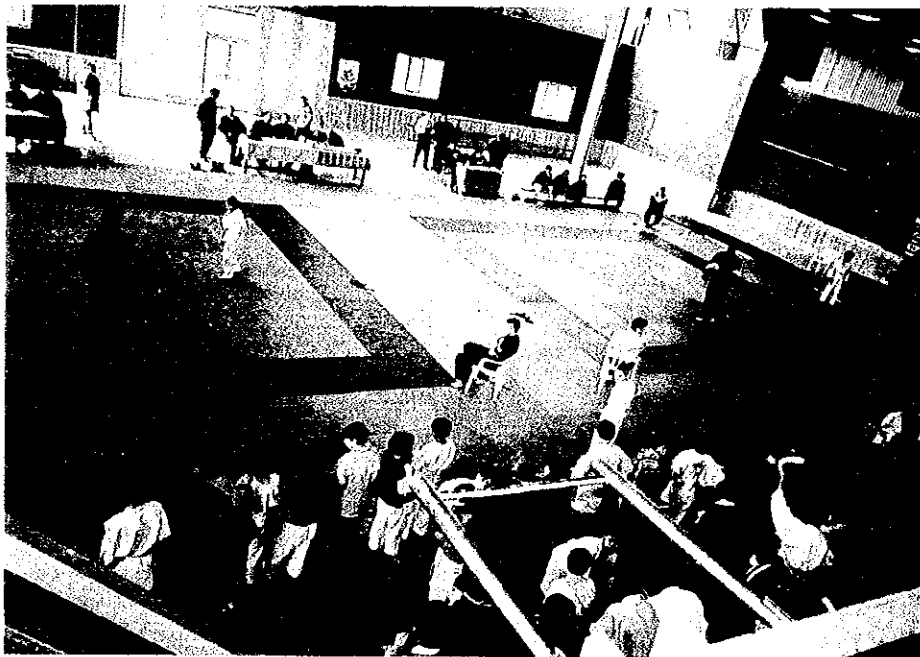
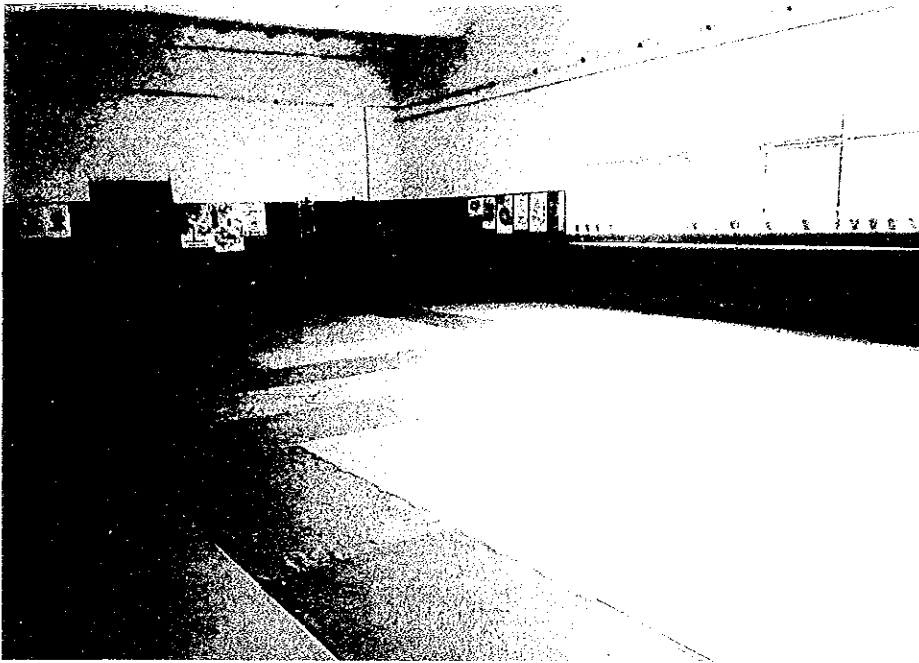
体操



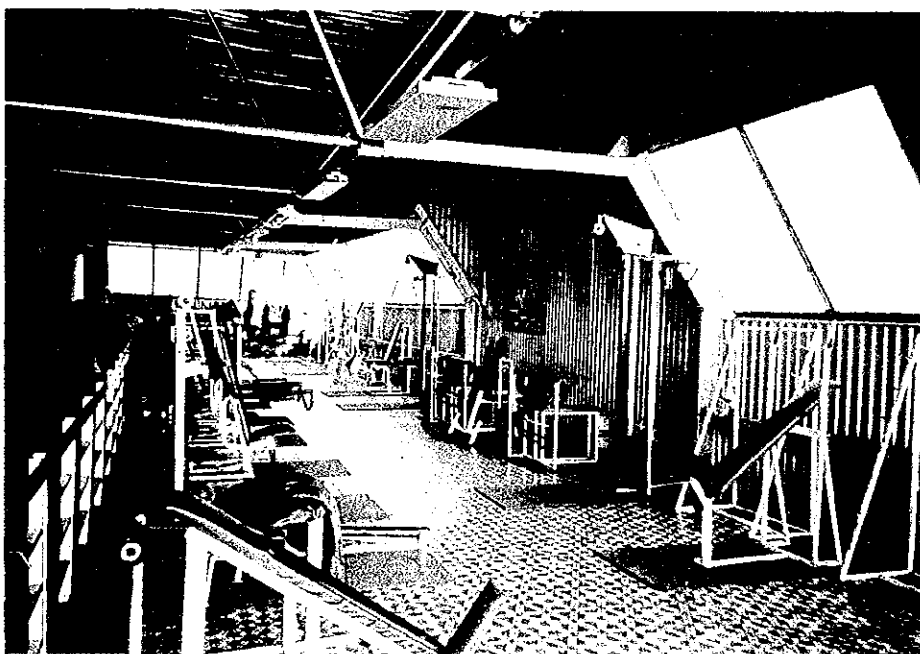
国家体育スポーツ委員会

柔道

スポーツ学院の道場



試合風景



柔道場にあるジム











JICA